ATOM SQ

ハイブリッド MIDI キーボード / パッド パフォーマンスおよび制作コントローラー

取扱説明書

PreSonus® ホームページ

目次

1 概要 — 1

1.1 はじめに — 1

1.3 箱の中身 — 2

1.4 MyPreSonus アカウントの内容 — 2

1.5 付属のPreSonus製品 — 3

1.6 ファームウェアアップデート — 3

2 標準コントローラモード — 4

2.1 セットアップモード — 4

2.2 パッド — 6

2.2.1 RGBカラー— 6

2.2.2ノートのトリガー— 6

2.2.3 プラスマイナスパッド— 6

2.3 タッチストリップ — 7

2.4 AH ボタン — 7

2.5 ノブ 1-8 — 7

2.6 ナビゲーション ボタン — 7

2.7 トランスポートボタン — 8

2.8 画面コントロール — 8

2.8.1計器モード— 8

2.8.2ソングモード— 11

2.8.3 エディターモード— 12

2.8.4ユーザーモード— 13

3 上級者向け Studio One Pro 統合 — 14

3.1 コントロール — 14

3.1.1 パッドコントローラー— 14

3.1.2タッチストリップ— 15

3.1.3 AH ボタン— 15

3.1.4エンコーダー— 15

3.1.5 ナビゲーション ボタン— 16

3.1.6トランスポートボタン— 16

3.1.7グローバルコントロール— 16

3.2 画面コントロール — 18

3.2.1 楽器モード— 18

3.2.2ソングモード— 25

3.2.4ユーザーモード— 33

3.3 ランチャー — 35

3.3.1 ランチャーモードのコントロール— 35

3.3.2 点滅ライトと点滅ライト— 38

4 上級者向けAbleton Live 統合 — 39

4.1 制御機能 — 39

4.1.1 RGBカラー— 39

4.1.2ノートまたはクリップのトリガー— 39

4.1.3 プラスマイナスパッド— 39

4.1.4タッチストリップ— 39

4.1.5 AH ボタン— 40

4.1.6ノブ 1-8 — 40

4.1.7 ナビゲーション ボタン— 41

4.1.8トランスポートボタン— 41

4.2 画面コントロール — 41

4.2.1 楽器モード— 41

4.2.2ソングモード— 44

4.2.3 エディターモード— 45

4.2.4ユーザーモード— 45

5 Studio One Pro クイックスタート — 46

5.1 インストールと認証 — 46

5.2 Studio One Pro の設定 — 47

5.2.1 オーディオデバイスの設定— 48

5.2.2 MIDIデバイスの設定— 48

5.3 新しい曲を作る — 52

5.3.1 オーディオI/Oの設定— 52

5.3.2オーディオと楽器トラック— 54

5.3.3 オーディオトラックの録音— 55

5.3.4仮想楽器とエフェクトの追加— 55

1 概要

1.1 導入

PreSonus® ATOM SQ ハイブリッド MIDI キーボード / パッド制作およびパフォーマンス コントローラーをお買い上げいただきありがとうございます。ATOM SQ は、現代の音楽制作に適した多用途で表現力豊かな MIDI パッド コントローラーとして設計されています。そのユニークなデザインは、Studio One Pro でのクラシックな TR スタイルの 16 ステップ ビート シーケンスとドラム パターン編集、または Ableton Live での楽器演奏とクリップの起動の両方に最適化されていますが、交互に配置され RGB ライトが点灯する 32 個のパッド構成は、コントローラー キーボードを演奏したことがある人なら誰でもすぐに使い慣れたものです。高度な機能を使用してキーボード スケールを変更したり、内蔵のアルペジエーターとユーザー設定可能なタッチ ストリップにより、ATOM SQ はこれまでで最も表現力豊かなコントローラーとなっています。

PreSonus Audio Electronics は、製品の改善に常に取り組んでおり、お客様のご提案を非常に重視しています。製品の改善という目標を達成する最善の方法は、真の専門家である大切なお客様の声に耳を傾けることだと考えています。この製品のご購入を通じていただいたサポートに感謝するとともに、ATOM SQ を気に入っていただけることを確信しています。

このマニュアルについて: ATOM SQ をコンピューターに接続する前に、このマニュアルを使用して、ATOM SQ の機能、アプリケーション、ワークフローについて理解しておくことをお勧めします。これにより、パフォーマンスが向上し、結果が早く得られます。

このマニュアル全体を通じて、ATOM SQ のエキスパートにすぐになることができ、投資を最大限に活用できるパワー ユーザーのヒントが見つかります。

1.2 製品登録

PreSonus は、お客様に最高の体験を提供することに尽力しています。My PreSonus は、登録済みのお客様のニーズをすべて満たすワンストップ ポータルです。My PreSonus アカウントから、PreSonus のすべてのハードウェアおよびソフトウェア登録を表示したり、ドライバー、インストーラー、コンテンツをダウンロードしたり、サポートに問い合わせたり、注文を追跡したりすることができます。

ATOM SQ を登録するには:

My.PreSonus.comにアクセス画面の指示に従ってください。

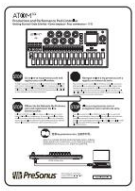
または

Apple App Store または Google Play から MyPreSonus アプリをダウンロードしてください。

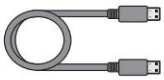
1.3 箱の中身

ATOM SQ パッケージには次のものが含まれています。

ATOM SQ ハイブリッド MIDI キーボード / パッド制作およびパフォーマンス コントローラー



PreSonus ATOM SQ クイック スタート ガイド



5フィート（1.5m)USBケーブル

1.4 MyPreSonusアカウントの内容

ATOM SQ を登録すると、以下をダウンロードできるようになります。

Studio One Pro レコーディング ソフトウェアとコンテンツ。

ユニバーサルコントロール（ファームウェアアップデートに必要）

Ableton Live Lite

エイブルトンライブライト

EDM エリート Vol. 1 ライブラリ

ダーティエレクトロハウスライブラリ

1.5 関連PreSonus製品

PreSonus をお選びいただきありがとうございます。ソリューション カンパニーとして、当社はお客様 (つまりあなた) に最高のサービスを提供する最善の方法は、シグナル チェーンの最初から最後まで最高のエクスペリエンスを提供することだと考えています。この目標を達成するために、当社は初日からこれらの製品のすべての設計段階を通じてシームレスな統合を優先してきました。その結果、過度な設定の手間をかけずに、箱から出してすぐに意図したとおりに相互通信するシステムが実現しました。

私たちはあなたのためにここにいます。詳細については、 www.presonus.com をご覧ください。

1.6 ファームウェアアップデート

PreSonus は、継続的な製品改善に取り組んでいます。この取り組みの一環として、機能の追加、機能性の向上、現場で発見された問題の解決などを行うファームウェア アップデートを定期的に提供しています。このため、ATOM SQ を登録した後は、My PreSonus アカウントから Universal Control をダウンロードすることを強くお勧めします。

注意:このマニュアルの発行時点では、ATOM SQ の全機能を使用するにはファームウェアのアップデートが必要です。Universal Control をダウンロードしてインストールし、ユニットでファームウェアのアップデートを実行する必要があります。

インストール中に、さまざまな PreSonus オーディオ ドライバーをインストールするオプションが表示されます。ATOM SQ を使用するには、ドライバーをインストールする必要はありません。

インストールが完了したら、ATOM SQ をコンピューターに接続します。ATOM SQ は完全にバスパワーで動作します。USB ハブを使用している場合は、ATOM SQ を電源ポートに接続していることを確認してください。

ATOM SQ に新しいファームウェアが利用可能になると、Universal Control から通知が表示されます。[ファームウェアの更新] ボタンをクリックすると、更新プロセスが開始されます。
ファームウェアのアップデートが完了すると、ATOM SQ は自動的に再起動します。

2 標準コントローラーモード

ATOM SQ は Studio One Pro および Ableton Live とシームレスに統合されているだけでなく、ほぼすべての制作ソフトウェアで使用できる多用途のコントローラーでもあります。Studio One Pro および Ableton Live では、ATOM SQ は自動的に構成され、すぐに使用できるようになります。

ATOM SQ を他のアプリケーションで使用するには、次のモードから選択できます(詳細についてはセクション 2.1 を参照)。

- MIDI モード。制作ニーズに合わせてコントローラーを手動で設定できる柔軟性を備えた標準のパッドまたはキーボード コントローラー。MIDI モードでは、ソフトウェアの MIDI 設定またはオプションに、ATM SQ と ATM SQ コントロールの 2 つの MIDI ポートが表示されます。MIDI の送信または受信を設定する必要があるのは ATM SQ ポートのみです。

- Mackie MCU モード。柔軟性と基本的なコントロール サーフェスのサポートを可能にするハイブリッド コントロール モード。

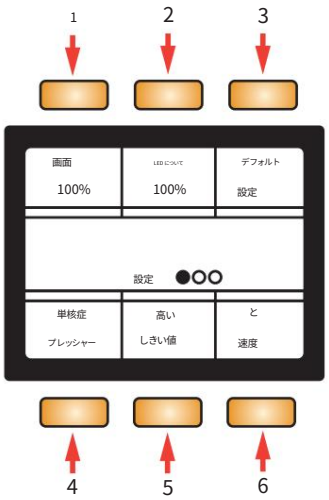
- Mackie HUI モード。柔軟性と基本的なコントロール サーフェスのサポートを可能にするハイブリッド コントロール モードです。これは Pro Tools に推奨されるモードです。

MCU または HUI モードを使用するには、ほとんどのソフトウェア アプリケーションで ATOM SQ をコントロール サーフェスとして設定する必要があります。設定手順については、アプリケーションのリファレンス マニュアルを参照してください。Mackie MCU または Mackie HUI デバイスが作成されており、MIDI ポートが送信と受信の両方で「ATM SQ コントロール」に設定されていることを確認してください。

2.1 セットアップモード

丸いセットアップ ボタンを押すと、ATOM SQ ディスプレイでセットアップ モードが開きます。

セットアップモード: ページ 1



1.スクリーン。選択すると、スクリーンエンコーダーは画面全体の明るさを調整します。

2. LED。選択すると、スクリーン エンコーダーはすべてのパッドとボタンの全体的な明るさを調整します。

3.デフォルト設定。すべての設定をデフォルトにリセットします。

4.圧力。選択すると、スクリーン エンコーダーは最初の打撃後に送信される圧力メッセージの種類を変更します。

- モノ。モノフォニックアフタータッチ。
- ポリ。ポリフォニックアフタータッチ。
- CC。ソフトウェアで簡単に MIDI 学習できる MIDI メッセージを送信します (モノフォニック)。
- オフ。圧力メッセージは送信されません。

注意:モノフォニック アフタータッチ、ポリフォニック アフタータッチ、および MIDI 学習は、すべてのアプリケーションでサポートされているわけではありません。

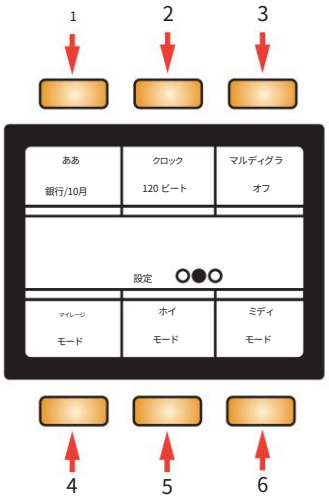
5.しきい値。選択すると、スクリーン エンコーダーは、圧力メッセージを送信する前に必要な圧力を変更します。

- 低い。プレッシャーのメッセージを送信するのにそれほどのプレッシャーは必要ありません。
- 中程度。プレッシャーのメッセージを送信するには、さらに強いプレッシャーが必要です。
- 高。圧力メッセージを送信するために必要な最大の圧力。

6.ベロシティ。選択すると、スクリーン エンコーダーは ATOM SQ がパッドの打撃を解釈する方法 (ベロシティ カーブ) を変更します。

- ソフト。パッドを軽く叩くことを好むプレーヤー向け。
- 中。ほとんどのプレイヤーに適しています。
- ハード。力強くパッドを叩くことを好むプレーヤー向け。

セットアップモード: ページ 2



1. AH ボタン。選択すると、スクリーン エンコーダーのプライマリ モードとセカンダリ モードが切り替わります。

- バンク/オクターブ。AHボタンを押すとバンクまたはオクターブ。Shift ボタンを押しながら AH ボタンを使用すると、MIDI 学習可能な MIDI メッセージが送信されます。
- CC。AHボタンを押すと、MIDI学習可能なMIDI メッセージ。Shift ボタンを押しながら AH ボタンを使用すると、バンクまたはオクターブが変更されます。

2.クロック。内部クロック モード時に選択すると、スクリーン エンコーダーを回すとクロックの BPM が変更されます。ホストから外部クロックが送信されている場合は、外部クロックが表示され、ATOM SQ から BPM を調整することはできません。

3.マルディグラ。押すと、すべてのボタン、パッド、LEDが点灯します。

オフにしたり、色を変更したりできます。無効にするには、もう一度マルディグラボタンを押します。

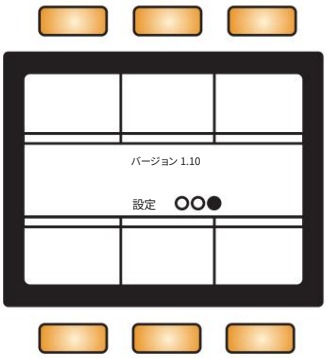
4. MCU モード。選択すると、トランスポート ボタン、ナビゲーション ボタン、およびソング モードの最初のページの表示ボタンは、一般的な Mackie MCU コマンドを送信します。

5. HUI モード。選択すると、トランスポート ボタン、ナビゲーション ボタン、およびソング モードの最初のページの表示ボタンは、一般的な Mackie HUI コマンドを送信します。

6. MIDI モード。これは、ユーザーによるカスタマイズが可能な ATOM SQ のデフォルト モードです。

注意: HUI および MCU モードの機能は、使用しているソフトウェア アプリケーションによって異なります。Studio One Pro の使用中は、Mardi Gras、MCU、HUI、および MIDI モードは使用できません。

セットアップモード: ページ 3



セットアップ モードの最後のページには、ATOM SQ にインストールされているファームウェアのバージョンが表示されます。

2.2 パッド

2.2.1 RGBカラー

パッドのカラーは、選択されたパッド レイアウト モードに応じて変わります。特定のモードではパッド カラーを変更することもできます。

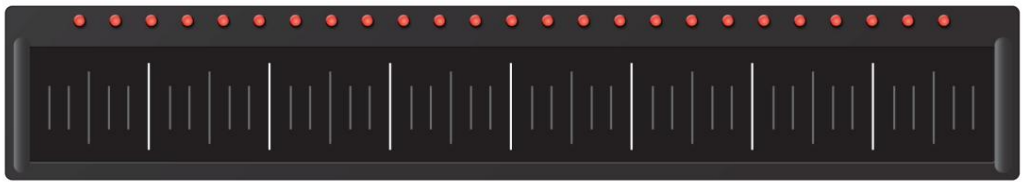
2.2.2ノートのトリガー

32 個のパッドはすべてベロシティに敏感です。弱い力で叩くと音が小さくなり、強い力で叩くと音が大きくなります (フルベロシティまたは 16 ベルが有効になっていない限り)。すべてのパッドは圧力にも敏感です。パッドを叩いて押し下げた後、圧力を強めたり弱めたりすることで、アフタータッチなどの複数の表現パラメータを制御できます (ソフトウェアで利用可能な場合)。

2.2.3プラスパッドとマイナスパッド

+ パッドと - パッドは圧力に敏感なボタンです。ピッチ ベンドまたはオクターブ アップ/ダウン コマンドのいずれかに割り当てることができます。

2.3 タッチストリップ

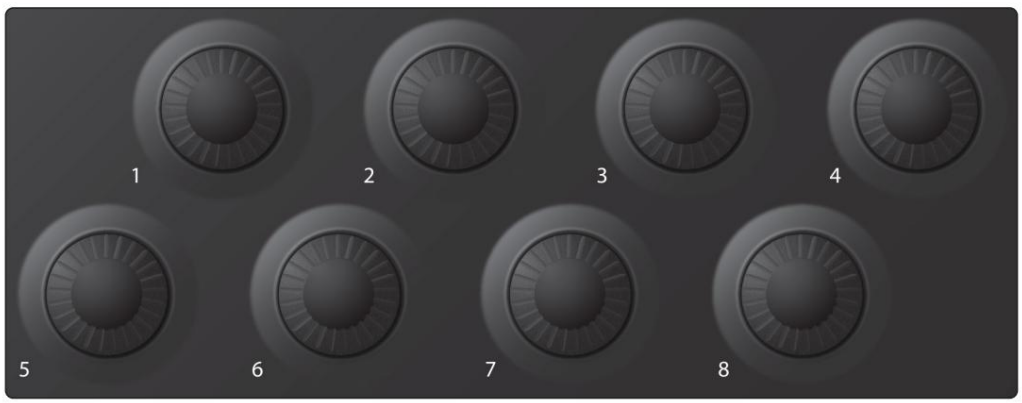


タッチ ストリップは、ATOM SQ に表現力豊かなコントロールを追加します。タッチ ストリップは、ピッチ ベンド、モジュレーション ホイールなどの音楽機能に割り当てることができます。詳細については、セクション 2.8.4 を参照してください。

2.4 AHボタン

AH ボタンは、現在のドラム バンクを変更したり、キーボード レイアウトの現在のオクターブを変更したりできます。キーボード レイアウトでは、A ボタンはサスティンの瞬間ボタンとして使用されます (押し続けるとサスティンになります)。または、Shift キーを押したままにすると、AH ボタンは、サポートされているソフトウェアで MIDI Learn を使用して割り当てることができるコマンドを送信します。

2.5 ノブ1〜8



8 つのメインノブを使用して、ソフトウェアのパラメータを制御できます。
パワー ユーザーのヒント:これらのノブには速度乗数が組み込まれています。ノブを速く回すほど、最小値または最大値に到達するまでの時間が短くなります。

2.6 ナビゲーションボタン

Shift ボタンの左側にある上、下、左、右のナビゲーション ボタンは、ATOM SQ のモードに応じて機能が変わります。MCU モードまたは HUI モードでは、次のトラックまたは前のトラックに移動したり、一部のズーム機能を制御したりできます。MIDI モードでは、これらのボタンはソフトウェアで自由に割り当てることができます。

2.7 トランスポートボタン

MCU モードおよび HUI モードでは、これらは専用のトランスポート ボタンになります。
一部のボタンには、Shift キーを同時に押すとプライマリ コマンドとセカンダリ コマンドが実行されます。
MIDI モードでは、これらのボタンは自由に割り当てることができます。

MCU/HUIモード

- 停止。トランスポートの再生を停止します。
- Shift + Stop。最後のコマンドまたはアクションを元に戻します。
  これはすべてのソフトウェアで利用できるわけではありません。
- 再生。再生ヘッドの位置からトランスポートを開始します。
- Shift + 再生。ループを有効または無効にします。
- 録音。再生ヘッドの位置から録音を開始します。これはすべてのソフトウ
  ェアで使用できるわけではありません。
- Shift + 録音。現在の曲を保存します。これはすべてのソフトウェアで使用できるわけではありません。
- メトロノーム。メトロノームを有効または無効にします。
  これはすべてのソフトウェアで利用できるわけではありません。

2.8 画面コントロール

ATOM SQ の画面機能は、さまざまなコマンドやコントロールに対応するためにページング システムを使用します。画面エンコーダーの下にあるページ左ボタンとページ右ボタンを使用すると、複数の画面コマンドをページング できます (使用可能な場合)。

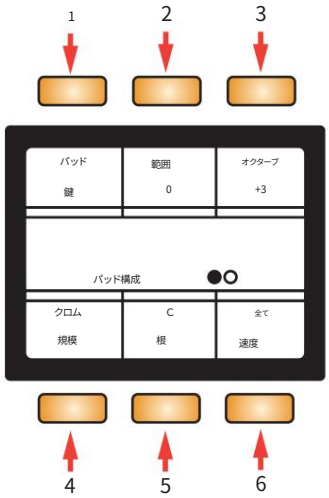
パワーユーザーのヒント:最初のページに素早く戻るには、モード ボタンをもう一度押します。

画面ボタンを押して機能を選択したり、機能を有効/無効にしたりします。 画面エンコーダーを使用して、選択した画面パラメータ値を変更します。

2.8.1計器モード

インストゥルメント モードでは、画面が変更され、仮想インストゥルメントを制御し、ATOM SQ ファームウェアに組み込まれているアルペジエーター モードにアクセスするための機能が表示されます。

2.8.1.1パッドの設定



1.パッド。選択すると、スクリーン エンコーダーによってパッドのレイアウトの表示
方法が変更されます。

• キー。ピアノのレイアウトに従います。下のレーンの白鍵
上のレーンには黒鍵と白鍵があります。クロマティック以外のスケール タイプを選択した場合は、明るいパッドがスケール内の正しい音を演奏するようにガイドします。暗いパッドは「間違った音」とみなされますが、演奏可能です。

• ブロック。左側に 1 つのドラム バンクを割り当て、右側に 1 つのドラム バンクを割り当てます。最初のバンクはパッド 1 から始まり、2 番目のバンクはパッド 9 から始まります。

• 連続。下のレーン (パッド 1 ～ 16) から始めて左から右へすべてのピッチを割り当て、次に上のレーン (パッド 17 ～ 32) に続けます。

2.範囲/トランスポーズ。選択すると、スクリーン エンコーダーを回すと、キー モードでキーボードの表示範囲が変更され、ブロック モードまたは連続モードでパッドがトランスポーズされます。

3.オクターブ。選択すると、スクリーンエンコーダーはパッドのノート割り当てを音楽オクターブ単位で上下に調整します (7 オクターブまで可能)。オクターブは BH ボタンを使用して変更することもできます。

4.スケール。選択すると、スクリーン エンコーダーはパッドのノート割り当てを変更し、選択した音楽スケールに制限します。

•半音階、すべての可能な音符が利用可能

•選考科目

•メロディックマイナー

•ハーモニックマイナー

•ナチュラルマイナー

•メジャーペンタトニック

•マイナーペンタトニック

•ブルース

•ドリアンマイナー

•ミクソリディアン

•フリギア語

5.ルート。選択すると、スクリーン エンコーダーはスケールのルート ノート (C、C#、D、D#、E、F、F#、G、G#、A、A#、B) を変更します。ルート ノートは緑色のパッドで示されます。

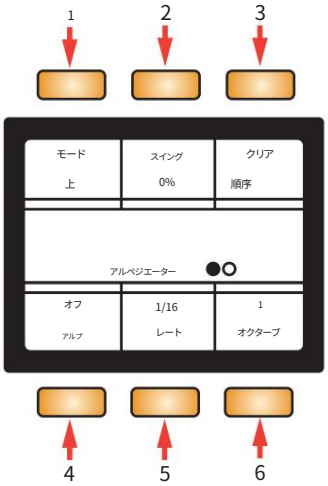
6.速度。選択すると、スクリーン エンコーダーは 3 つの速度モードを切り替えます。

- すべて。パッドは1～127のあらゆるベロシティをトリガーできます。
- フル。パッドは127の固定速度を送信します

• 16 ベロシティ。ブロック モードまたは連続モードの場合にのみ使用可能で、16 ベロシティは上部レーンから選択した MIDI ノートを取得し、選択したノートを下部レーンの 16 の固定ベロシティにマッピングします。パッド 1 はベロシティ 7 に固定され、パッド 16 はベロシティ 127 に固定されます。

2.8.1.2アルペジエーター

スクリーン エンコーダーの下の右矢印ボタンを押して、アルペジエーター ページに移動します。注意:アルペジエーター モードは、アルペジエーター ページにいる間のみ有効になります。



1.モード。選択すると、スクリーン エンコーダーはアルペジエーターの再生モードを変更します。

- 上へ。アルペジオは最も低い押さえられた音から始まり、押さえられた音の間を上へ移動し、アルペジオが再び始まると最も低い音に戻ります。
- ダウン。アルペジオは最も高い保持音から始まり、保持されている音を下方に移動し、アルペジオが再び始まると最も高い音に戻ります。
- 上/下。アルペジオは最低の音から始まり、最高音まで上昇し、次に最低音まで下降し、アルペジオが再び始まります。
- ダウン/アップ。アルペジオは、保持されている最高音から始まり、最低音まで下がっていき、その後最高音まで戻って、アルペジオが再び始まります。
- ランダム。アルペジオは現在押さえている音をランダムなパターンで演奏します。
- コード。現在押されているコード（または単音)は、押されている限り繰り返されます。
- 入力。アルペジオ パターンは、音符を演奏して保持する順序によって決まります。

2.スイング。選択すると、スクリーン エンコーダーはシーケンスに適用されるスイングの量を調整します。

3.シーケンスをクリアします。保留中のシーケンスを停止します。

4. Arp。アルペジエーターのオフ、オン、ホールド モードを切り替えます。

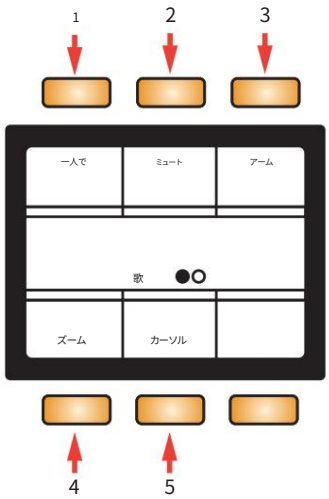
5.レート。選択すると、スクリーン エンコーダーは、アルペジエーターがシーケンス内の各ノートをステップする速度を調整します。

6.オクターブ。選択すると、スクリーン エンコーダーは、シーケンスが再開する前にステップするオクターブ数を変更します。

2.8.2ソングモード

MCU モードまたは HUI モードの場合、ソング モードの最初のページには、プロジェクトでよく使用される機能とコマンドが表示されます。ソング モードの 2 ページ目では、画面ボタンは自由に MIDI 割り当て可能で、ボタン 1 ～ 6 としてラベル付けされています。MIDI モードでは、割り当て可能なボタンのみがページ 1 に表示されます。

MCU/HUI ページ 1



1.ソロ。現在選択されているトラックをソロにします。

2.ミュート。現在選択されているトラックをミュートします。

3.アーム。現在選択されているトラックを録音アームします。

4.ズーム。ラッチされると、画面エンコーダーとナビゲーションの左矢印または右矢印で水平方向のズームを制御します。

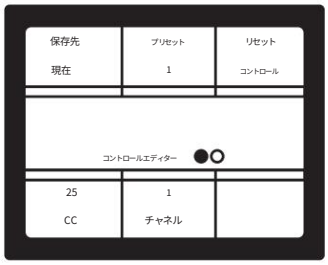
5.カーソル。ラッチされると、スクリーンエンコーダーはタイムライン上で再生ヘッドを移動します。

2.8.3エディターモード

エディター ボタンを押してコントロール エディターにアクセスします。このコントロール エディターを使用すると、ATOM SQ のさまざまなコントローラーから送信されるメッセージをカスタマイズできます。ノブを動かしたり、ボタンを押したり、タッチ ストリップに触れたり、パッドを押したりしてコントローラーを編集します。

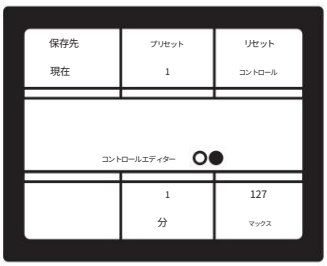
コントロール エディターからタッチ ストリップの割り当てを変更するには、まず CC モードにする必要があります。これはユーザー メニューから実行できます。詳細については、セクション 2.1 を参照してください。

ノブ 1 ～ 8、A ～ H ボタン、またはタッチストリップ エディター、ページ 1



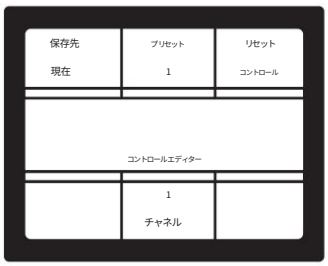
注意:タッチストリップが選択されている場合、チャンネルは使用できません。

ノブ 1-8、またはタッチストリップエディタ、ページ 2

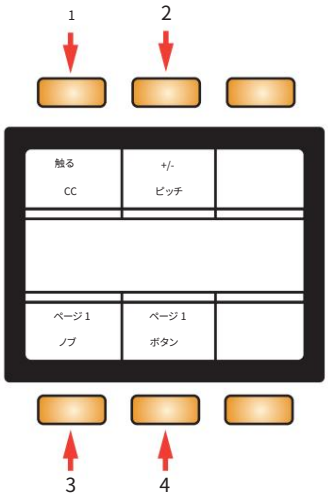


注意: AH ボタンの 1 つが選択されている場合、最小値と最大値は使用できません。

パッドエディター



2.8.4ユーザーモード



1.タッチストリップ。選択すると、スクリーンエンコーダーによってタッチストリップの動作が変更されます。

- 範囲。タッチしてスライドすると、キー モードで表示可能な範囲が変更され、ブロック モードまたは連続モードでは転置が変更されます。
- Mod。タッチしてスライドすると、Mod Wheel メッセージが最小 (左) から最大 (右) まで制御されます。
- ピッチ。タッチしてスライドすると、ピッチベンド メッセージを制御します。アクティブな間、ピッチは常に中央にリセットされます。
- CC。タッチしてスライドすると、ストリップ経由で送信される CC メッセージが最小 (左) から最大 (右) に制御されます。
- Arp.タッチストリップは 8 つの区分 (長い白い線) を使用してアルペジエーターの速度を変更します。左から右へ: 1/4、1/8、1/16、1/32、1/4T、1/8T、1/16T、1/32T。このモードでは、すべての赤色 LED がオフのままになり、タッチストリップが速度を制御していることを示します。

2. +/-。選択すると、スクリーン エンコーダーによって + ボタンと - ボタンの動作が変更されます。

- ピッチ。プラスとマイナスのボタンでピッチベンドをコントロールします。圧力。プラスボタンを押すとピッチが上がり、マイナスボタンを押すとピッチが下がります。ボタンを放すと中央に戻ります。
- オクターブ。プラスボタンとマイナスボタンでオクターブを上げたり下げたりします。

3.ノブ。選択すると、スクリーン エンコーダーはノブ 1 ～ 8 (合計 4 ページ/バンク) の MIDI 割り当てを変更します。

4.ボタン。選択すると、スクリーン エンコーダーは AH ボタンの MIDI メッセージの割り当てを変更します (合計 2 ページ/バンク)。

3 高度な Studio One Pro 統合

ATOM SQ を Studio One Pro に接続すると、ATOM SQ の Studio One Pro ロゴ ライトが青色に変わります。設定は必要ありません。Studio One Pro は ATOM SQ を自動的に検出し、高度な統合コントロールを有効にします。

外部デバイスの設定を確認するには、Studio One Pro スタートページの「外部デバイス」リンクをクリックし、ATOM SQ デバイスを選択します。ここで、送信ポートと受信ポートの両方が「ATOM SQ」に設定されていることを確認できます。

また、Shift キーを押しながら ATOM SQ を押すと、いつでも外部デバイス エディターを開くことができます。

新しい曲が作成されるか、既存の曲が開かれるまで、ATOM SQ のパッド、ボタン、タッチストリップの LED は暗いままになり、画面には機能がないことに注意してください。

新しい曲が作成されると、すべてのパッドが白くなり、画面はデフォルトで Inst (インストゥルメント) モードになり、バンク ボタン A ～ H がアクティブになります。ただし、インストゥルメントが Studio One Pro にロードされるまで、パッドとバンク ボタンは機能しません。

3.1 コントロール

3.1.1パッドコントローラ

ATOM SQ の 32 個のパッドはすべてベロシティ センシティブです。弱い力で叩くと音が小さくなり、強い力で叩くと音が大きくなります (フル ベロシティが有効になっていない場合)。すべてのパッドは圧力にも反応します。パッドを叩いて押し下げた後、圧力を増減して、Studio One Pro で使用可能な複数の表現力豊かなパラメーターを制御できます (アフタータッチなど)。

+と-のパッドは圧力に敏感なパッドのみです。ピッチベンドまたはブレス/モジュレーションホイールコマンドに割り当てることができます。

ATOM SQ のパッドの色は、Studio One Pro で現在何をコントロールしているかに応じて、次のように動的に変化します。 • Impact XT。Impact XT のインスタンスをコントロールしている間、ATOM SQ のパッドの色は Impact XT の各パッドの対応する色と一致します。これらの色は Impact XT 内から変更できます。Impact XT は 16 個のパッドの 8 つのバンクとして機能します。

ATOM SQ には 16 パッド バンクが 2 つ搭載されているため、2 つの Impact XT バンクが同時に表示され、A/B、C/D、E/F、G/H の複数のバンクにすばやくアクセスできます。
バンクは AH バンク ボタンを使用して変更できます。Impact XT でサウンドをトリガーすると、ATOM SQ のパッドが押されている間白に変わります。

- Native Studio One Pro またはサードパーティのバーチャル インストゥルメント。バーチャル インストゥルメントをコントロールする場合、ATOM SQ のパッドは、現在選択されているレイアウト モードを反映します。ほとんどのバーチャル インストゥルメントでは、キーボード モードが最適です。キーボード モードを有効にすると、ATOM SQ パッドの機能が従来のピアノ レイアウトで動作するように変更されます。連続またはスケールのみでは、パッド 1 から左から右にノートがレイアウトされます。サウンドをトリガーすると、ATOM SQ の各パッドは、押されている間はライト ブルーに変わります。

  注:スケールのルートのカラーは、現在のトラックの色に応じて変わります。

- パターン エディター。Studio One Pro のパターン エディターがアクティブな場合、ATOM SQ のパッドの上部レーンを使用して、プログラムするサンプルまたはノートを選択できます。パッドの下部レーンは、Studio One Pro ステップ シーケンサーの 16 ステップを制御し、16 バンクで 16 ステップをプログラムできます。
  これはドラム パターン モードとメロディック パターン モードの両方に当てはまります。パターン モードでは、A ～ H バンク ボタンを使用してオクターブまたはバンクを変更できます。オンのステップはパッドの明るさが最大になり、オフのステップは非常に暗くなります。シーケンスが再生されると、現在のステップのパッドの明るさがわずかに暗くなります。

3.1.2タッチストリップ

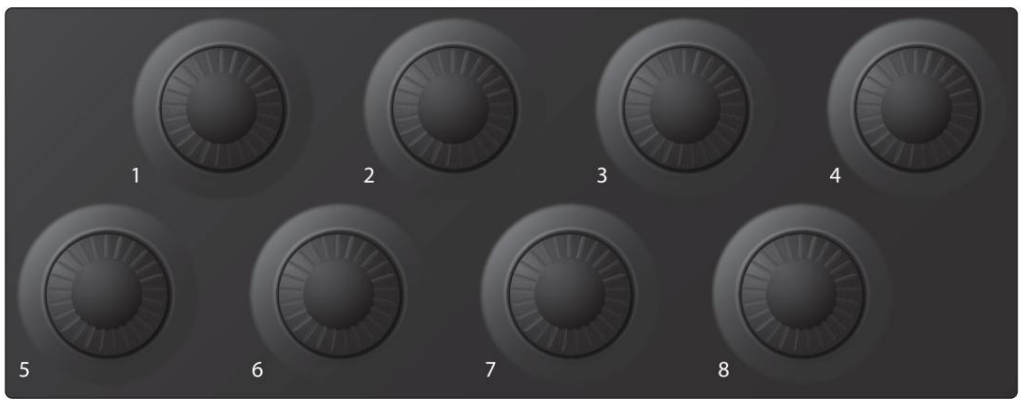
タッチ ストリップは、ATOM SQ に表現力豊かなコントロールを追加します。タッチ ストリップは、ピッチ ベンド、モジュレーション ホイールなどの音楽機能に割り当てることができます。詳細については、セクション 3.2.1.3 を参照してください。

3.1.3 AHボタン

AH ボタンを使用して、Impact XT の現在のドラム バンクを切り替えたり、キーボード、連続、またはスケールのみのレイアウト モードで現在のオクターブを変更したりします。

キーボード、連続、スケールのみのレイアウトでは、A ボタンは常にオレンジ色になります。
このボタンは、サステインの瞬間ボタンとして使用されます (押し続けるとサステインは持続します)。

3.1.4エンコーダ



ATOM SQ の 8 つの大型エンコーダーは、プラグインがバーチャル インストゥルメント、エフェクト、または Note FX のいずれであっても、プラグインにフォーカスがあるときにプラグイン パラメーターを制御するために使用できます。フォーカスされているプラグインに応じて、各エンコーダーにマップされるパラメーターは異なります。

すべての Studio One Pro Native プラグインにはデフォルトのマッピングがありますが、これらのコントロールは Control Link ウィンドウを使用して再割り当てできます。一部のサードパーティ プラグインにはデフォルトのマッピングがない場合があります。この場合、Control Link を使用して各エンコーダーに目的のパラメーターを割り当てる必要があります。すべてのカスタム割り当ては Studio One Pro のどのソングでも機能するため、割り当てを一度行うだけで、プラグインを開いたときにいつでも使用できます。

Studio One Pro 5.2 以降、ATOM SQ は自動入力をサポートしています。Studio One Pro の外部デバイス エディターを開き、ATOM SQ を選択します。自動入力ボタンをクリックすると、ノブ コントロールのすべてのページが自動的に入力されます。

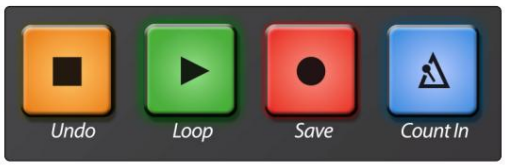
プラグインをコントロールする場合、ATOM SQ は、最大 64 個の個別コントロールに対して、コントロール リンクで最大 8 ページのコントロールをサポートします。ユーザー ボタンを押したまま、AH ボタンのいずれかを押すと、特定のコントロール ページに直接ジャンプします。また、Studio One Pro の外部デバイス エディターからこれらのページにアクセスし、マウス クリックでトリガーすることもできます。

パワー ユーザーのヒント: ATOM SQ エンコーダーには速度乗数が組み込まれているため、エンコーダーを速く回すほど、パラメーター範囲の最小値または最大値に早く到達します。

3.1.5ナビゲーションボタン

Shift ボタンの左側にある上、下、左、右のナビゲーション ボタンは、Studio One Pro でフォーカスされている内容に応じて機能が変わります。次のトラックまたは前のトラックに移動したり、ブラウザーをナビゲートしたり、イベント、ノート、アレンジャー セクションを選択したりできます。ATOM SQ の Shift ボタンを押したままナビゲーション ボタンを押すと、その時点でフォーカスされている内容に応じて動作が変わります。たとえば、イベントが選択されているときに Shift キーを押したままにして、ナビゲーション 左を押すと、左側のイベントが選択範囲に追加されます。

3.1.6トランスポートボタン



これらは ATOM SQ の専用トランスポート ボタンです。各ボタンにはプライマリ コマンドとセカンダリ コマンドがあります。セカンダリ コマンドにアクセスするには、Shift キーを押しながらトランスポート ボタンを押します。

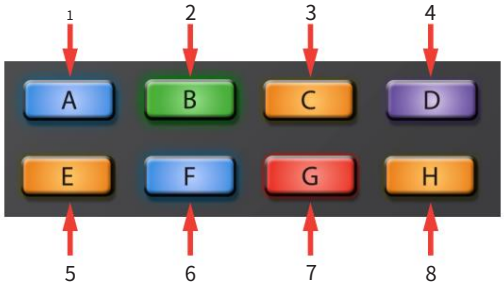
- 停止。トランスポートを停止します。
- Shift + Stop。Studio One Pro で最後のコマンドまたはアクションを元に戻します。
- 再生。現在の位置から再生を開始します。再生を停止するには、再生を押します。
- Shift + 再生。ループを有効または無効にします。有効にすると、再生ボタンが青色に点灯します。
- 録音。現在の再生位置から録音を開始します。パターン エディターがアクティブなときに押すと、録音/ステップ録音が有効になります。
- Shift + 録音。現在の曲を保存します。
- メトロノーム。メトロノームを有効または無効にします。
- Shift + メトロノーム。プリカウントを有効または無効にします。

3.1.7グローバルコントロール

ATOM SQ では、さまざまなメニュー間を行ったり来たりする必要を最小限に抑えるために、よく使用される特定のコントロールとコマンドを常に利用できるようにしています。
これらにアクセスするには、Shift ボタンを押したまま、いずれかの AH ボタンを押すか、いずれかのエンコーダーを回します。

AHボタン

グローバル機能にアクセスしている間、AH ボタンはオレンジ色に点灯します。
これらのボタンをグローバル コントロール機能に変更するには、Shift キーを押しながら目的のボタンを押します。これらは固定された機能です。Shift ボタンを押している間、ATOM SQ の画面にコマンドが表示されます。



1. ウィンドウの表示/非表示

2. トラック上のすべてを選択

3. コピー

4. 複製

5.やり直す

6. 過去を振り返る記録

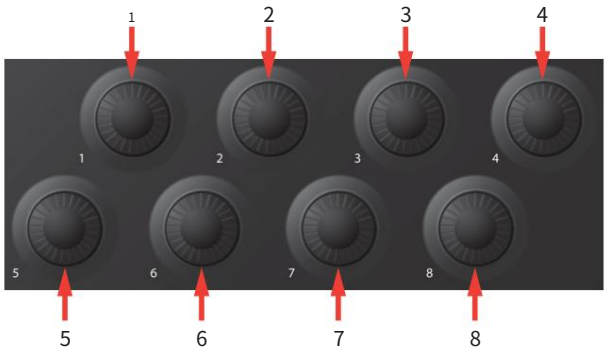
7. 貼り付け

8. 削除

エンコーダー 1-8

ATOM SQ の Shift ボタンを押し続けると、ノブの割り当てがグローバル コントロール機能に変更されます。これらは固定されたコントロールです。

上級ユーザーのヒント:これらのノブには速度乗数が組み込まれているため、ノブを速く回すほど、最小値または最大値に早く到達します。正確な動きには、ゆっくり回すのが最適です。



1. ループを移動する

2. 垂直ズーム

3. ループ開始

4. グリッド

5. 再生ヘッド

6. 水平ズーム

7. ループ終了

8. ナッジ

スクリーンエンコーダー

スクリーン エンコーダーには、プリセットを変更するためのグローバル機能も備わっています。インストゥルメント、エフェクト、またはノート FX エディターにフォーカスがある場合、Shift ボタンを押しながらスクリーン エンコーダーを回すと、次のプリセットまたは前のプリセットに切り替わります。プリセットの名前も ATOM SQ のディスプレイに短時間表示されます。

パワー ユーザーのヒント:プリセットを変更する前に必ずカスタム プリセットを保存してください。そうしないと、作業内容が失われます。

タッチストリップ

タッチストリップは、Shift ボタンと一緒に使用するとトラックの音量を制御します。Shift キーを押しながらストリップをタッチして左にスライドすると、選択したトラックの音量が下がり、右にスライドすると、選択したトラックの音量が上がります。

パワーユーザー向けのヒント: Inst モードの「パフォーマンス設定」メニューから、タッチストリップの主な割り当てをボリュームに変更することもできます。

3.2 画面コントロール

ATOM SQ の柔軟な画面では、さまざまなコマンドやコントロールをすぐに使用できます。ページ左ボタンとページ右ボタンを使用すると、追加の画面コマンドをページ単位で切り替えることができます (使用可能な場合)。

パワーユーザーのヒント:最初のページに素早く戻るには、[ページ左] ボタンをもう一度押します。

機能の上または下のボタンを使用してコマンドを送信したり、有効化/機能を無効にしたり、Studio One Pro ウィンドウを表示/非表示にしたりします。スクリーン エンコーダーを使用して、オクターブ、レートなどの選択した画面パラメータ値を変更します。

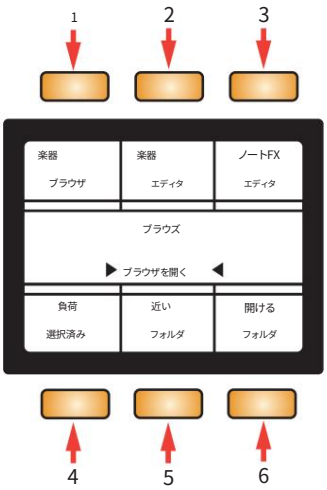
ATOM SQ は、Studio One Pro で現在フォーカスされている機能を動的に追跡します。フォーカスは 2 つの異なる方法で示されます。

- アレンジメント、ブラウザ、エディタ、コンソール。ATOM SQ でこれらのウィンドウのいずれかにフォーカスが当てられている場合、その周囲に薄い青い四角形が表示されます。
- インストゥルメント、エフェクト、ノート FX エディター。ATOM SQ でこれらのエディターのいずれかにフォーカスが当たっている場合、ATOM SQ というラベルの付いた明るい黄色のボタンが表示されます。ボタンが黄色でない場合は、エディターにフォーカスがありません。

3.2.1計器モード

インストゥルメント モードがオンになっている場合、ATOM SQ の画面には、インストゥルメントの参照と読み込み、イベントの追加または管理、特定のパッドとパフォーマンス パラメータの設定によく使用されるコマンドが表示されます。

3.2.1.1閲覧



1.インストゥルメント ブラウザ。ブラウザのインストゥルメント タブを開いたり閉じたりします。
注意: Studio One Pro は起動時にデフォルトで「ホーム」タブに表示されます。「インストゥルメント ブラウザ」ボタンを押すと、インストゥルメント タブに直接移動します。

ブラウザが開いている間:

- スクリーンエンコーダーはリスト内の次の項目または前の項目を選択します
- ナビゲーション矢印の上、下、左、右でも次の項目を選択できます。
  またはリスト内の前の項目に移動します。注:これらの矢印は、画面エンコーダーの真下にあるページ左矢印とページ右矢印とは異なります。

2.インストゥルメント エディター。現在選択されている仮想インストゥルメント
ウィンドウを表示または非表示にします。

3.ノート FX エディター。ノート FX エディターを表示または非表示にします。

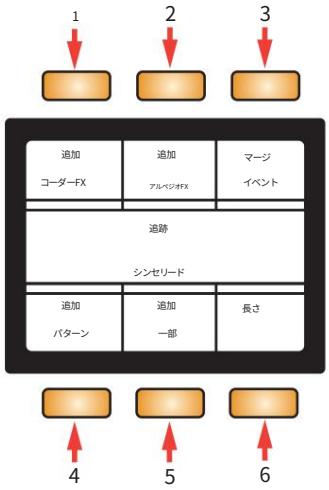
4.選択項目をロードします。現在選択されているインストゥルメントまたはインストゥルメント プリセットを新しいトラックにロードします。トラックの現在のインストゥルメントをブラウザーから新しく選択したインストゥルメントに置き換えるには、Shift キーを押しながら選択項目をロードします。

5.フォルダーを閉じる。ブラウザーで選択したフォルダー ツリー モードに応じて、現在のフォルダーを閉じるか、メニューを折りたたみます。

6.フォルダを開く。次のフォルダを開くか、メニューを展開します。
ブラウザで選択したフォルダツリーモードによって異なります。

3.2.1.2インストゥルメントトラック編集コントロール

Page Up を押すとトラック編集コントロールにアクセスできます。ここから、パートや
パターン、Chorder FX などを追加できます。



1. Chorder FX を追加します。選択したトラックに Chorder Note FX をロードします*。

2. Arp FX を追加します。選択したトラックに Arpeggiator Note FX をロードします*。

3.イベントを結合します。現在選択されているイベントが結合されます。

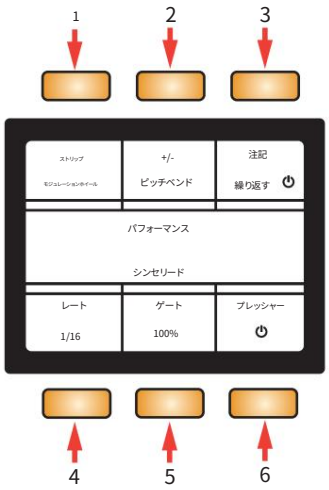
4.パターンを追加します。現在の再生ヘッドの位置に 1 小節のパターン イベントを追加します。

5.パートを追加。現在の再生ヘッドの位置に 1 小節のインストゥルメント パート イベントを追加します。

6.長さ。長さを選択すると、スクリーン エンコーダーを使用して、選択したイベント (インストゥルメント パート、パターン、またはオーディオ) の長さがグリッド量だけ変更されます。

3.2.1.3パフォーマンス構成

もう一度 Page Up を押すと、パフォーマンス設定ページにアクセスします。このページでは、パフォーマンス
のニーズに合わせて ATOM SQ のコントロールを調整できます。



1.ストリップ。ストリップを選択すると、スクリーン エンコーダーを使用してタッチ ス
トリップの機能が次のように変更されます。

- ピッチベンド。タッチストリップはピッチベンド MIDI コントロールに割り当てられ、リリース時に常に中央にリセットされ、ストリップ上部の赤い LED で示されます。

• モジュレーションホイール。タッチストリップはモジュレーションホイールに割り当てられます。
左端の位置で最小値、右端の位置で最大値となる MIDI コントロール。アクティブな間、モジュレーション
は最後にタッチした位置に留まり、ストリップの上の赤い LED で示されます。

• エクスプレッション。タッチストリップはエクスプレッションMIDIに割り当てられます。
コントロールは、最小値が左端、最大値が右端に表示されます。アクティブな間、エクスプレッション
は最後にタッチした位置に留まり、ストリップの上の赤い LED で示されます。

• ブレスCC。タッチストリップはブレスMIDIに割り当てられます。
左端が最小値、右端が最大値となるようにコントロールします。ブレスは、最後にタッチした位
置に留まります (ストリップの上の赤い LED で示されます)。

• リピーター (ノートリピート)。タッチストリップは、8 つの区分 (長い白い線) を使用してノートリピー
ト速度を変更します。左から右へ: 1/4、1/8、1/16、1/32、1/4T、1/8T、1/16T、1/32T。このモード
では、すべての赤色 LED が点灯したままになり、タッチストリップがリピート速度を制御してい
ることを示します。

• Ch.Vol.タッチストリップは、現在選択されているトラックの音量を制御す
るために割り当てられます。

• コントロール リンク。Studio One Pro のコントロール リンク機能を使用して、タッチ ストリップ
を任意のパラメーターに割り当てることができます。

2. +/-。スクリーンエンコーダーを使用してプラスボタンとマイナスボタンの割
り当てを変更する場合に選択します。

• ピッチベンド、プラスパッドでは圧力が強くなるほどピッチが上がり、マイナスパッドでは圧力が
強くなるほどピッチが下がります。

• Breath/Mod、マイナスパッドの圧力でモジュレーションホイールをコントロールし、プラス
パッドの圧力でブレス MIDI コントロールをコントロールします。

3.ノートリピート。有効にすると、演奏されたノートは現在のレートで繰り返されます。

4.レート。選択すると、スクリーン エンコーダーはノート リピートのレートを変更します。

5.ゲート。音符の繰り返しの長さを増減します。

6.圧力。圧力の強弱によってノートリピートの速度を制御する機能を有効または無効
にします。

3.2.1.4パッドの設定

もう一度 Page Up を押すと、パッド設定ページにアクセスします。ここから、パッドのレイアウト モー
ドやスケール モードなどを設定できます。

1.レイアウト。選択すると、スクリーン エンコーダーによってパッドのレイアウトの表示方法が変更されます。この機
能は Impact XT を使用する場合は使用できません。

• キーボード。ピアノのレイアウトに従います。下のレーンに白鍵、上のレーンに黒鍵があります。スケールタ
イプを選択した場合 (

クロマチック（Chromatic)の場合、明るいパッドはスケール内の正しい音を演奏するようにガイドします。暗いパッドは「間違った音」とみなされますが、演奏可能です。

• 連続。下レーン (パッド 1-16) から始めて左から右へすべてのピッチを割り当て、次に上レーン (パッド 17-32) へと続きます。スケール タイプ (クロマティック以外) を選択した場合、明るいパッドがスケール内の正しい音符を演奏するようにガイドします。暗いパッドは「間違った音符」とみなされますが、演奏は可能です。

• スケールのみ。選択したスケール タイプの一部であるピッチのみを、下のレーン (1-16) から始めて左から右へ、次に上のレーン (17-32) まで割り当てます。

2.スケール。選択すると、スクリーン エンコーダーはパッドのノート割り当てを変更し、選択した音楽スケールにバインドします。
この機能は Impact XT を使用する場合には利用できないことに注意してください。

•半音階、すべての可能な音符が利用可能

•選考科目

•メロディックマイナー

•ハーモニックマイナー

•ナチュラルマイナー

•メジャーペンタトニック

•マイナーペンタトニック

•ブルース

•ドリアンマイナー

•ミクソリディアン

•フリギア語

•メジャートライアド

•マイナートライアド

3.ルート。選択すると、スクリーンエンコーダーはルートを変更します。
音階の音符 (C、C#、D、D#、E、F、F#、G、G#、A、A#、B)。ルート音符は、トラックの色が設定されている色を反映するパッドです。
この機能は Impact XT を使用する場合には利用できないことに注意してください。

4.オクターブ。選択すると、スクリーンエンコーダーは
パッドのノート割り当ては、音楽オクターブ単位で上下します (7 オクターブまで可能)。オクターブは、BH ボタンを使用して変更することもできます。
この機能は Impact XT を使用する場合には利用できないことに注意してください。

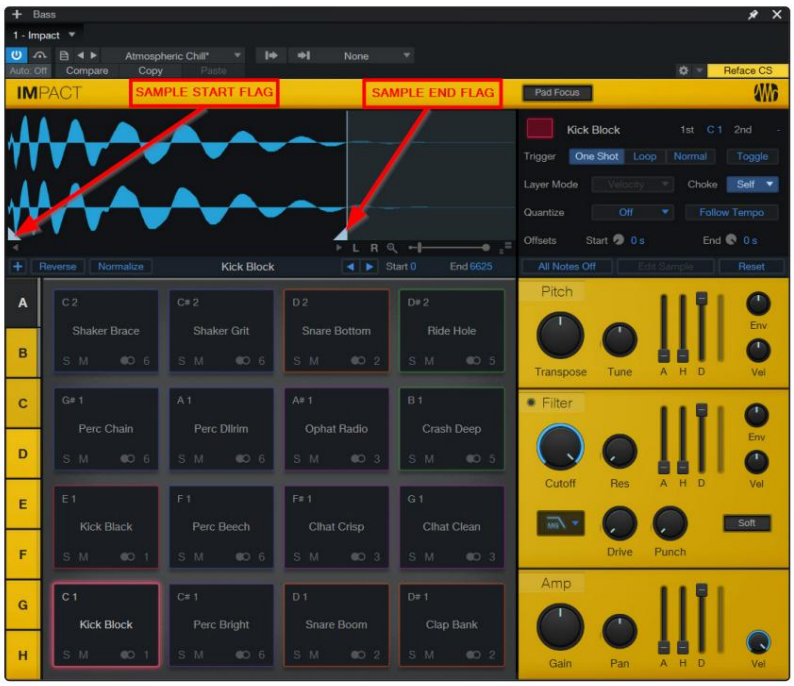
5.範囲。選択すると、スクリーンエンコーダーは表示可能な範囲を移動します。
キーボード レイアウトでは、ピアノの断面を左または右に移動し、連続レイアウトまたはスケールのみのレイアウトの演奏可能な音符範囲を下または上にシフトします。この機能は、Impact XT を使用する場合は使用できません。

6. Full Vel。有効にすると、ノートは常に固定ベロシティ 127 でトリガーされます。

3.2.1.5高度なサンプル制御モード

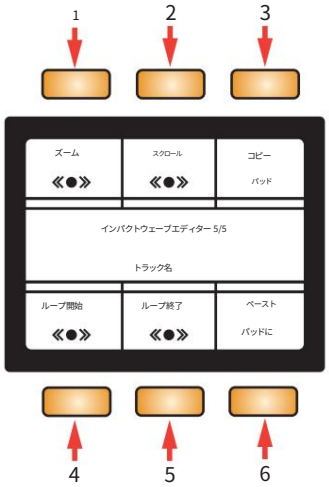
Studio One Pro 5.5 以降を使用している場合は、ATOM SQ から Impact XT または SampleOne のループ開始/終了、および SampleOne のサンプル開始/終了を制御できます。

インパクトXT



ATOM SQ の Instrument (Inst) ボタンを押し、ページ 5 の「Impact Wave Editor」に移動します。

注意:トラックに Impact XT または SampleOne のインスタンスがない場合、ページ 5 に「Sample Wave Editor」と表示され、「Sampler Track が選択されていません」と表示されます。



1.ズーム。選択すると、画面エンコーダーを使用して、最後に移動した開始フラグまたは終了フラグを拡大または縮小します。

2.スクロール。選択すると、画面エンコーダーを使用してサンプルの表示を左または右にスクロールできます。

3.コピーパッド。押すと、現在選択されているサンプルと一部のサンプル設定がコピーされます。

4.ループ開始。選択すると、画面エンコーダーを使用してサンプルのループ開始位置を移動できます。

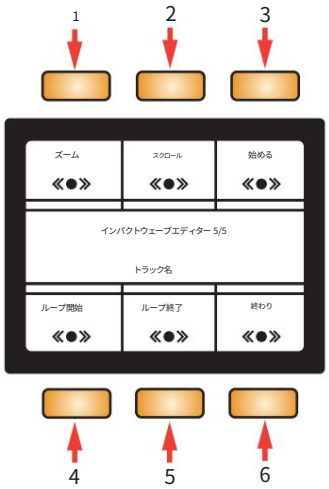
5.ループ終了。選択すると、画面エンコーダーを使用してサンプルのループ終了位置を移動します。

6.パッドに貼り付け。押すと、以前にコピーしたサンプルを新しいパッドに貼り付けます。

サンプルワン

ATOM SQ の Instrument (Inst) ボタンを押し、ページ 5 の「SampleOne Wave Editor」に移動します。

注意:トラックに Impact XT または SampleOne のインスタンスがない場合、ページ 5 に「Sample Wave Editor」と表示され、「Sampler トラックが選択されていません」と表示されます。



1.ズーム。選択すると、画面エンコーダーを使用して、最後に移動した開始フラグまたは終了フラグを拡大または縮小できます。

2.スクロール。選択すると、画面エンコーダーを使用してサンプルの表示を左または右にスクロールできます。

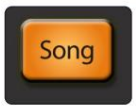
3.開始。選択すると、画面エンコーダーを使用してサンプルのサンプル開始位置を移動します。

4.ループ開始。選択すると、画面エンコーダーを使用してサンプルのループ開始位置を移動できます。注:SampleOne でループを有効にする必要があります。

5.ループ終了。選択すると、画面エンコーダーを使用してサンプルのループ終了位置を移動できます。注:SampleOne でループを有効にする必要があります。

6.終了。選択すると、画面エンコーダーを使用してサンプルのサンプル終了位置を移動します。

3.2.2ソングモード



ATOM SQ のソング モードでは、テンポ、コンソールの表示/非表示、エフェクトの追加、アレンジャー トラックの操作など、曲全体でよく使用される機能とコマンドを表示するように画面が変更されます。

3.2.2.1輸送

1.テンポ。選択すると、スクリーン エンコーダーはテンポを ±1 BPM 単位で調整します。

2.ループ選択。現在選択されているイベントは、ループインを設定するために使用されます。および Out ポイント。トランスポートのループ ボタンを使用してループを有効/無効にする必要があります。ループ範囲が設定されていない場合、ループは使用できません。

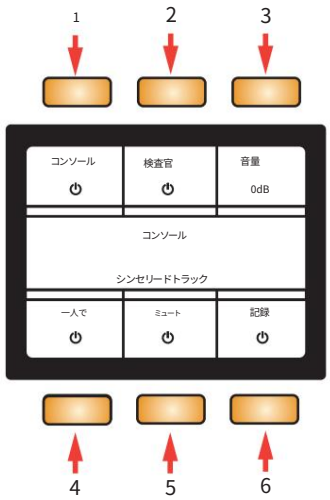
3.ズーム ループ。選択したイベントを使用してズーム レベルを設定します。

4.マーカー。選択すると、スクリーン エンコーダーは次のマーカーまたは前のマーカーに移動します。

5.マーカーを追加します。現在の再生ヘッドの位置にマーカーを作成します。

6. IQ。入力クオンタイズを有効または無効にします。有効にすると、録音後に演奏が自動的にクオンタイズされます（仮想楽器を使用している場合）。

3.2.2.2コンソール



1.コンソール。Studio One Pro のコンソールを表示または非表示にします。

2.インスペクター。Studio One Pro のインスペクターを表示または非表示にします。

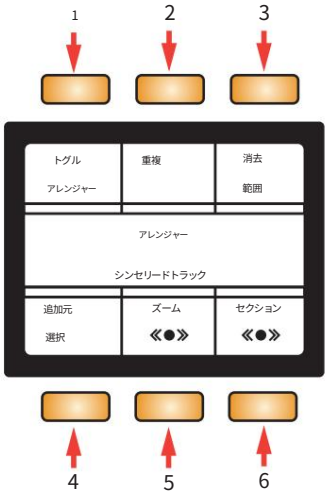
3.音量。選択すると、スクリーン エンコーダーは現在選択されているトラックの音量を変更します。

4.ソロ。現在選択されているトラックをソロにします。

5.ミュート。現在選択されているトラックをミュートします。

6.録音は現在選択されているトラックを有効にします。

3.2.2.3アレンジャートラック



1.アレンジャーを切り替えます。アレンジャー トラックを開いたり閉じたりします。

2.複製。現在選択されているセクションのコピーを作成します。

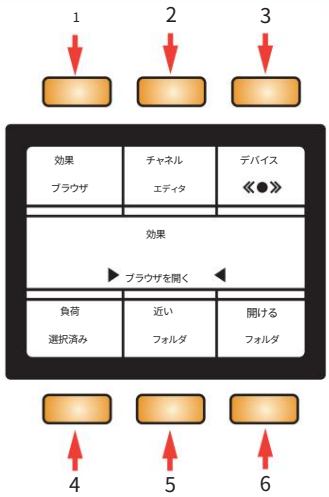
3.範囲を削除。現在選択されているセクションを削除します。

4.選択範囲から追加。現在選択されているイベントから新しいアレンジャー セクションを作成します。

5.ズーム。水平方向に拡大または縮小します。

6.セクション。選択すると、スクリーン エンコーダーは再生ヘッドを次のまたは前のアレンジャー セクションに移動し、そのセクションを選択します。

3.2.2.4効果



1.エフェクトブラウザ。ブラウザのエフェクトタブを開いたり閉じたりします。
Studio One Pro は起動時にデフォルトでホーム タブに表示されます。エフェクト ブラウザ ボタンを押すと、エフェクト タブに直接移動します。ブラウザが開いている間:

• スクリーンエンコーダーはリスト内の次の項目または前の項目を選択します

•ナビゲーション矢印の上、下、左、右は、リスト内の次または前の項目を選択します（これらの矢印は、スクリーンエンコーダの真下にあるページ左矢印とページ右矢印とは異なります）。

2.チャンネル エディター。エフェクトのインターフェイスであるエフェクト エディターを表示または非表示にします。

3.デバイス。有効になっていて、チャンネル エディターにフォーカスがある場合、スクリーン エンコーダーはチャンネル エディター内の次のエフェクトまたは前のエフェクトを選択します。

4.選択項目をロードします。現在選択されているエフェクトまたはエフェクト プリセットを、選択したトラックにロードします。このオプションは常に画面に表示されます。

5.フォルダを閉じる。現在のフォルダがある場合はそれを閉じるか、ブラウザで使用されているツリー モードに応じてメニューを折りたたみます。このオプションは常に画面上に表示されます。

6.フォルダを開く。次のフォルダがある場合はそのフォルダに移動する。ブラウザで使用されているツリー モードに応じてメニューを展開します。このオプションは常に画面上に表示されます。

注意: 「選択した項目を読み込む」、「フォルダーを閉じる」、「フォルダーを開く」は、これらの機能が使用可能かどうかに関係なく、画面上で使用できます。

3.2.3 エディターモード

ATOM SQ のエディター モードでは、画面が変わり、Studio One Pro の各エディター ウィンドウ (オーディオ、パターン、パート) でよく使用される機能とコマンドが表示されます。注:エディター ボタンを押すと、エディター ウィンドウで現在選択されているイベントのそれぞれのエディター タイプが開きます。ソングまたはインスト ボタンを押すと、Studio One Pro のエディター ウィンドウが閉じ、ATOM SQ の画面がそれに応じて変わります。エディター モードでは、ユーザー ボタンも使用できます。

3.2.3.1パターンエディタ

パターン エディターがアクティブな場合、これらのコントロールは次のように機能します。

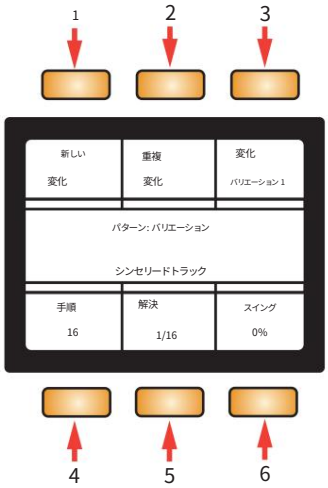
• ナビゲーション左矢印と右矢印。次または前の 16 に移動します。ステップ（使用可能な場合）。Shift キーを押しながらナビゲーション左または右を押すと、アレンジメント内の次または前のパターン イベントが選択されます。

• ナビゲーション上下矢印。プログラミングする次のレーンまたは前のレーンを選択します (上のレーンのパッドをタップすると、パターン エディターのパッドの対応するレーンも選択されます)。

• プラス (+)。プラス (+) を使用すると、ステップにアクセントを追加できます。+ を押したまま、下のレーンのパッドをタップすると、アクセントが追加されます。

• マイナス（-）。マイナス（-)ボタンを使用すると、複数のステップにまたがるタイを追加できます。押したまま、 -、次に、音符が始まる下のレーンのパッドをタップします
パターン内のノートを終了させたいステップの後ろをタップします。

パターン: バリエーション



1.新しいバリエーション。新しい空のパターンバリエーションを作成します。

2.バリエーションを複製します。現在のバリエーションのパターンを新しいバリエーションにコピーします。

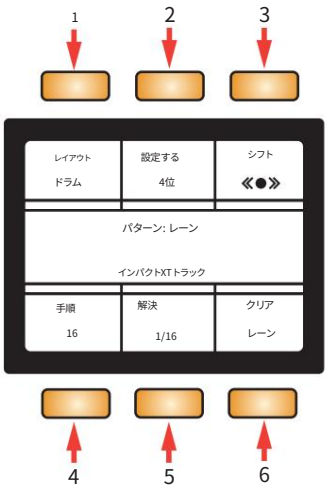
3.バリエーション。選択すると、スクリーン エンコーダーは次のバリエーションまたは前のバリエーションに切り替わります。Studio One Pro でバリエーションの名前が変更されると、新しい名前もここに反映されます。

4.ステップ。選択すると、スクリーンエンコーダーは
パターンのステップ。16 を超えるステップが作成された場合、ナビゲーションの左矢印ボタンと右矢印ボタンを使用すると、次の 16 ステップまたは前の 16 ステップに移動します。

5.解像度。選択すると、スクリーン エンコーダーはパターンの解像度を 1/32 音符などの短い音符の長さ、または 1/4 音符などの長い音符の長さに変更します。

6.スウィング。これを選択すると、スクリーン エンコーダーはパターンにスウィング感 (2 番目と 4 番目の音符を遅らせる) を適用します。0% はスウィングなし、100% は最大スウィング量です。

パターン: レーン (ドラム モードのみ)



1.レイアウト。ドラムとメロディックのレイアウトから選択します。

2. 4 ステップごとに設定します。選択したレーンの 4 ステップごとにノートを入力します。

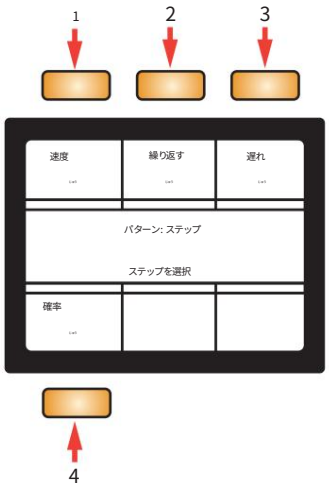
3.シフト。選択すると、スクリーン エンコーダーはレーンの既存のノートを右または左にシフトします。

4.レーン ステップ。選択すると、スクリーン エンコーダーは、パターンのステップとは関係なく、選択したレーンのステップ数を変更します。

5.車線解像度。選択すると、スクリーンエンコーダーは車線の解像度を変更します。パターンの解像度に関係なく、より短い期間またはより長い期間に解像度を調整します。

6.レーンをクリアします。選択したレーン内のすべてのノートをクリアします。

パターン: ステップ



ATOM SQ では、個々のパターン ステップの詳細を編集できます。Studio One Pro でパターンを選択し、画面エンコーダーの下の左矢印キーまたは右矢印キーを押して、「パターン: ステップ」ページに移動します。

次に、ATOM SQ の下のレーンでアクティブなステップをタップして、編集対象として選択します。ノブの機能は次のとおりです。

ベロシティ。選択すると、スクリーン エンコーダーは現在選択されているステップのベロシティを変更します。

繰り返し。選択すると、スクリーン エンコーダーによってステップが繰り返される回数が変更されます。

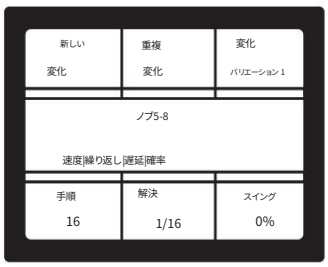
遅延。選択すると、スクリーン エンコーダーはステップのタイミングをグリッドから早める (負の値) か遅らせる (正の値) かのいずれかに変更します。

確率。選択すると、スクリーン エンコーダーはステップが再生される確率を変更します (100% = 常に再生、0% = 再生されない)。

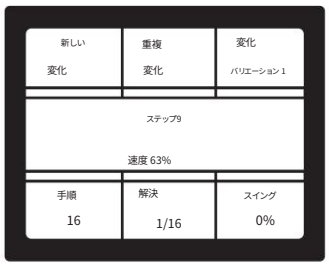
このページからシーケンスに新しいステップを追加するには、下のレーンのパッドを押し続けます。

3.2.3.2ステップオートメーションのオンザフライ編集

「パターン: ステップ」以外のページでは、下のレーンのアクティブなステップを長押しすることで、編集するステップをすばやく選択できます。



ATOM SQ の画面に「ノブ 5-8」と Velocity | Repeat | Delay | Probability が表示されます。
下のレーンでステップを押したまま、ノブ 5-8 を使用して対応するパラメータを調整します。

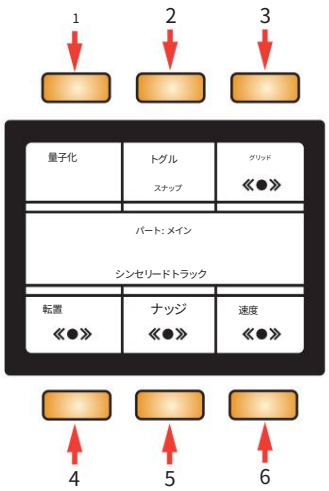


値が変更されると、ATOM SQ の画面に現在編集されている値が表示されます。

3.2.3.3パーツエディタ

パーツエディタでは、ATOM SQのナビゲーションは左と右
矢印キーを押すと、次のノートまたは前のノートが選択されます。Shift キーを押しながらナビゲーション キーの左または右を押すと、複数のノートが選択されます。

パート: メイン



1.クオンタイズ。選択したすべてのノートの開始位置を最も近いグリッド ポイントに正確に移動します。

2.スナップを切り替えます。グリッドへのスナップのオン/オフを切り替えます。

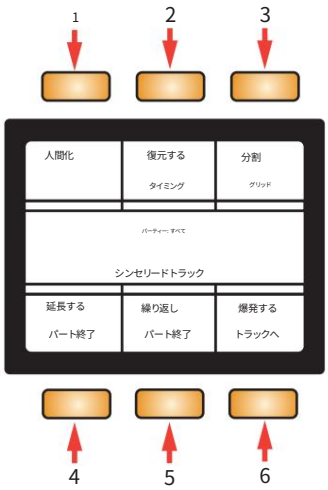
3.グリッド。クオンタイズ グリッドを短い音符または長い音符の値に変更します。

4.トランスポーズ。選択すると、スクリーンエンコーダーは
選択した音符を上下に移動します。または、ナビゲーション上下ボタンを使用して、選択した音符を上下に移動することもできます。ATOM SQ の Shift ボタンとナビゲーション上下のいずれかを押したままにすると、音符がそれぞれ 1 オクターブ上または下に移動します。

5.ナッジ。選択すると、スクリーンエンコーダーは選択した部分を移動します。
クォンタイズ グリッドの設定に応じて、ノートが左または右に移動します。

6.ベロシティ。選択すると、スクリーン エンコーダーは選択したノート
のベロシティを変更します。

パーティー: すべて



1.ヒューマナイズ。非常に小さなしきい値内でノートの開始時間と終了時間、および速度を変更します。これにより、演奏が人間がパートを演奏したように聞こえるようにするのに十分なバリエーションが提供されます。

2.タイミングを復元します。クオンタイズされた楽器パートまたはノートの元のタイミングを復元します。

3.グリッドで分割。選択した音符を現在のクオンタイズ グリッドで分割します。

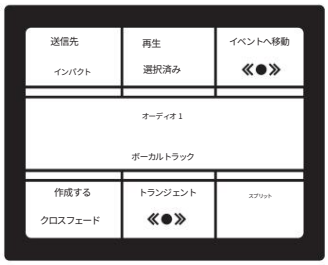
4.パートの終わりまで延長します。選択したノートの終了ポイントをイベントの終わりまで延長します。

5.パート終了まで繰り返します。選択した音符を繰り返します。
パートの最後までクオンタイズグリッドに従って演奏します。

6.トラックに展開します。各ピッチを個別のトラック上の個々の楽器パートに配置します。

3.2.3.4オーディオエディタ

オーディオ 1



1. Impact に送信します。Impact XT がロードされた新しいインストゥルメント トラックを作成し、選択した各オーディオ イベントまたは各ベンド マーカーをパッドに割り当てます。

2.選択から再生。トランスポートが停止中または再生中に、再生ヘッドをイベントの先頭に移動します。

3.イベントへ移動。トランスポートが停止している場合、再生ヘッドをイベントの先頭に移動します。

4.クロスフェードを作成します。選択した分割オーディオ イベント間にクロスフェードを自動的に作成します。

5.トランジェント。再生ヘッドを次のトランジェントまたは前のトランジェント、あるいはベンド マーカーに移動します。

6.分割。現在の再生ヘッドの位置でイベントを分割します。

オーディオ2

1. SampleOne に送信します。SampleOne XT がロードされた新しいインストゥルメント トラックを作成し、選択した各オーディオ イベントをピアノ キーに割り当てます。

2.逆再生。選択したオーディオ イベントを逆再生します。

3.音量。選択すると、スクリーンエンコーダーが音量を上げます。
または、オーディオ イベントの音量を下げます。注: これにより、コンソールのチャンネルの音量が制御されるわけではありません。

4.クロスフェードを削除します。選択した分割オーディオ イベント間のクロスフェードを削除します。

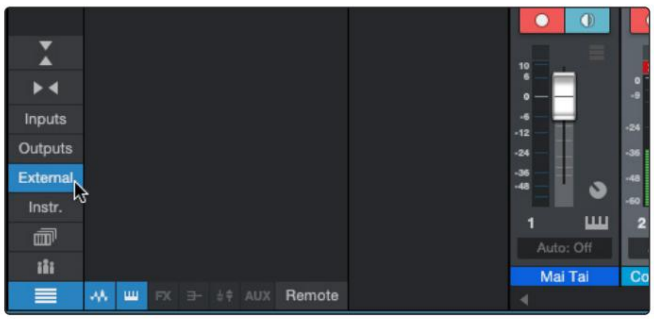
5.イベントを結合します。選択したイベントを結合します。

6.グリッドで分割。現在のクオンタイズ グリッドのすべての交差点でイベントを分割します。

3.2.4ユーザーモード

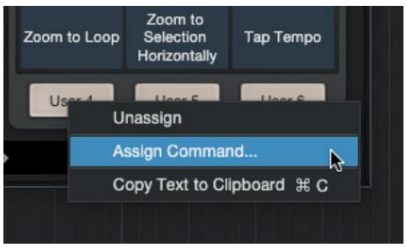
ユーザー モードでは、ATOM SQ は Studio One Pro の外部デバイス エディターを介して現在割り当てられているコマンドを送信します。

Studio One Pro で外部デバイス エディターを開くには、コンソールの左端の列から [外部] を選択するか、ATOM SQ で Shift + User を押します。



ATOM SQ をダブルクリックするとエディターが起動します。ユーザー ボタンにはデフォルトのコマンドが割り当てられていますが、これらは変更およびカスタマイズできます。

ATOM SQ 画面のボタンに機能を割り当てるには、ユーザー # ラベルを右クリックし、「コマンドの割り当て」を選択します。

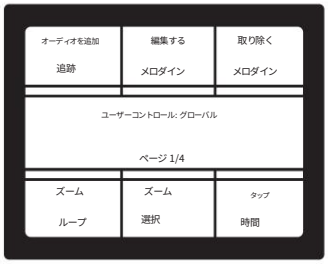


リストからコマンドを選択して「OK」を押すか、特定のコマンドまたはマクロを検索します。「OK」を押すと、選択したコマンドがそのユーザー ボタンに割り当てられ、ATOM SQ の画面のそのスペースにコマンドの名前が表示されます。ユーザー ボタンの割り当ては、作業中のセッションに関係なく常に存在します。

外部デバイス エディターが開いている間は、ATOM SQ の 8 つのノブとそれぞれの 8 つのページに対するフォーカスされたオブジェクトの割り当ても表示できます。

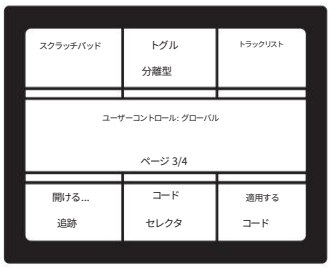
デフォルトのユーザー ボタンの割り当ては次のとおりです。

ページ 1:



ページ2:

ページ3:

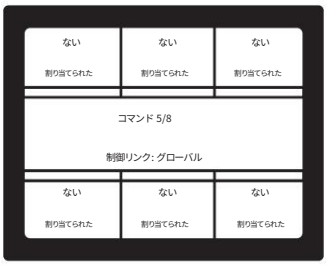


ページ4:

このページには、Studio One Pro のショー ページ専用のコントロールが表示されます。

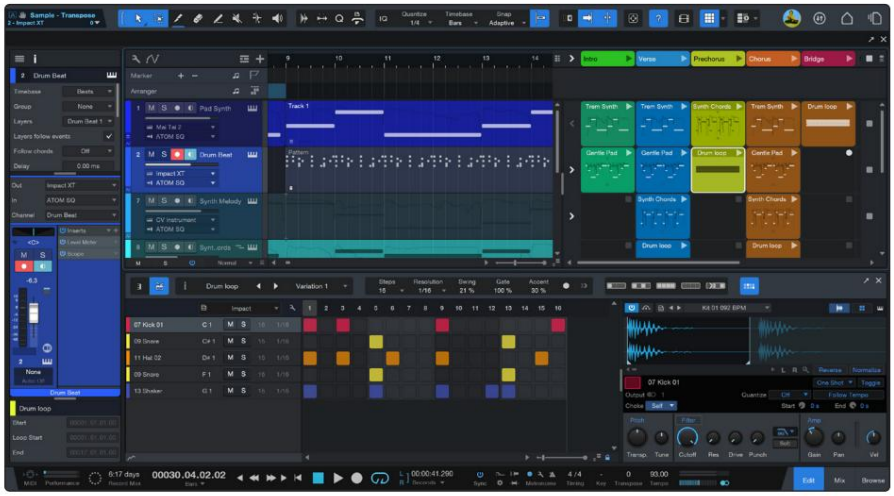
ページ5-8:

これらのページはユーザーがカスタマイズできます。自分に最適なワークフローを作成しましょう。



3.3 ランチャー

Studio One Pro には完全に統合された Launcher が搭載されており、音楽の作成、アレンジ、制作、演奏に新しいエキサイティングなアプローチを提供します。



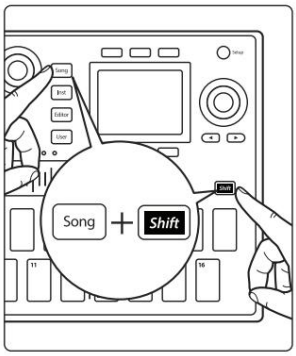
ランチャーは、ループベースの音楽作成と制作に興味がある方に最適です。また、タイムラインの内容に影響を与えずに新しい曲のアレンジをすばやくテストしたい場合にも、ランチャーが役立ちます。

Studio One Pro 7 以降では、ATOM SQ からランチャーを制御できます。

3.3.1ランチャーモードのコントロール

このセクションでは、ATOM SQ から利用できるランチャー モードのコントロールについて説明します。
Studio One Pro 内でのランチャーの動作の詳細については、Studio One Pro リファレンス マニュアルを参照してください (Studio One Pro が開いているときにリファレンス マニュアルをすばやく開くには、ALT / Option + F1 を押します)。

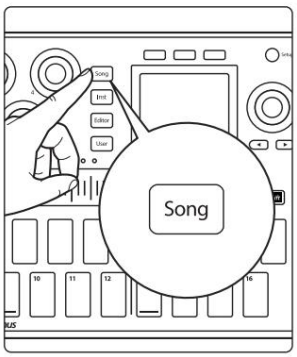
ランチャーモードに入るには:



Shift + Song を押すか、ATOM SQ の Song モードの 5 ページ目に移動します。パッドは、パッドが仮想楽器のノートをトリガーするインストゥルメント モードから、ランチャー モードに変わります。ランチャー モードでは、パッドはランチャーのセルを表します。セルにイベントがあり、対応するパッドが押されると、イベントがトリガーされます (詳細は以下を参照)。

注: ランチャーのクオンタイズ モードの設定に応じて、セルは時間内に起動または停止します。

ランチャー モードを終了するには:

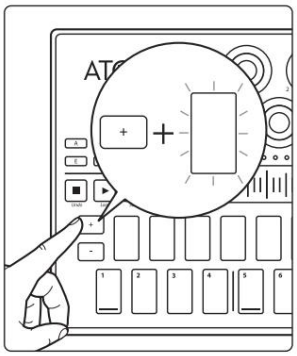


曲ボタン（Shift キーなし）またはその他の画面モード ボタンを押します。

セルを起動または停止するには:

ランチャー モードで、イベントがセル内にある場合は、点灯しているパッドのいずれかをタップします。セルを停止するには、同じ行の点灯していないパッド (空のセル) をタップします。

セルの再生を停止するには:

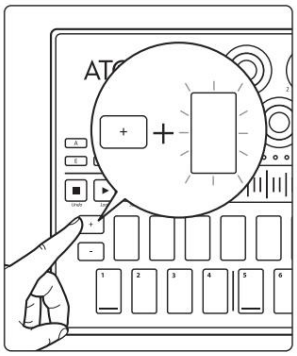


プラス (+) ボタンを押したまま、点滅しているライトが付いているパッドをタップします。

シーンを起動または停止するには:

シーンまたはハイブリッド ビューの場合、下のレーンの各パッド番号はシーン番号に対応します (例: パッド 1 = シーン 1 など)。パッドをタップすると、対応するシーンが起動します (列内のすべてのセルが起動します)。

シーンの再生を停止するには:



プラス (+) ボタンを押したまま、点滅しているライトが付いているパッドをタップします。

注:シーンは、ランチャーのクオンタイズ モードの設定に応じて、時間内に起動または停止します。

セル間の移動:

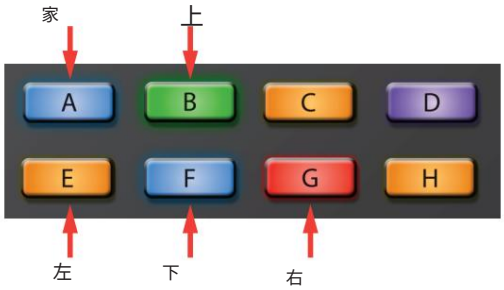
ランチャーでセルを選択した後、ナビゲーション ボタンを使用してセル間を移動できます。

「フレーム」の移動:

ATOM SQ には、2 x 16 グリッドに配置された 32 個のパッドがあります。セル ビューまたはハイブリッド ビュー (以下の追加機能のセクションを参照) では、曲内のトラックとシーンの数に応じて、特定の時点でフォーカスされているセルを示す細い黄色の 2 x 16 アウトラインが表示されます。シーン ビューでは、フレームはランチャーのグリッドで 1x16 アウトラインに縮小されます。

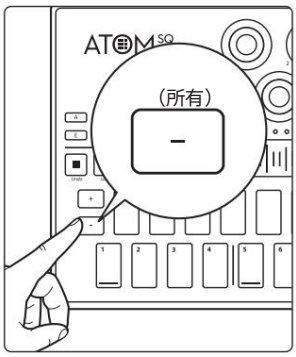
フレームを移動して他のセルにフォーカスするには、ATOM SQ の B (上)、F (下)、E (左)、または G (右) バンク ボタンを押します。E ボタンと G ボタンで左右に移動するには、16 を超えるシーンを追加する必要があることに注意してください。

A バンク ボタンを押すと、フレームが「ホーム」位置に戻ります。



プロユーザーのヒント: Studio One Pro のフレームの色はカスタマイズできます。これは、複数の ATOM がある場合に特に便利です。Studio One Pro の環境設定に移動し、[外部デバイス] タブをクリックします。フレームの色を変更するには、アクティブな ATOM SQ をダブルクリック (またはクリックしてから [編集] ボタンを押します) し、[デバイス名] の横にあるカラー パッチをクリックします。これにより、カラー ピッカーが開きます。

トラックビューに入るには:



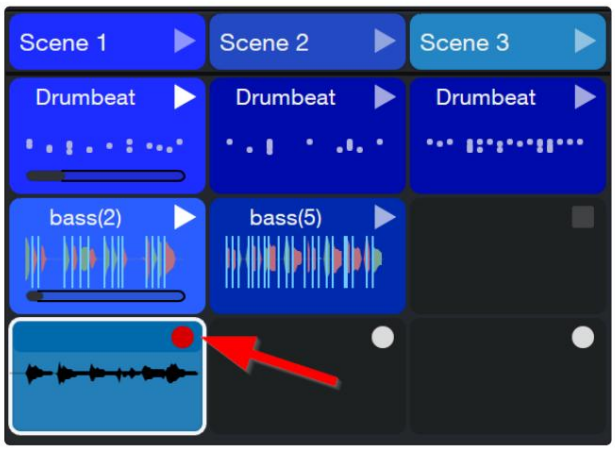
マイナス (-) ボタンを長押しすると、トラック ビューに入ります。トラック ビューでは、各パッドの列が一般的なトラック オプションへのショートカットになります。

- 列 1 - タップすると対応するトラックがミュートされます (青色に点灯)。
- 列 2 - タップすると対応するトラックがソロになります (黄色に点灯)。
- 列 3 - タップすると対応するトラックが録音アームされます (赤く点灯)。
- 列 4 - タップすると、対応するトラックで再生中のセルが停止します (照明の色はトラックの色に従います)。

マイナスを離すと、パッドはランチャー モードに戻ります。

セルを録音アームするには:

トラックが録音アームされている場合、空のセルの停止アイコンが録音アイコンに変わります。



録音準備完了のセルは、ATOM SQ 上で赤く点灯します。赤く点灯しているパッドをタップすると、セルはオーディオまたは楽器の音符の録音を開始します。同じパッドをもう一度タップすると、録音が停止し、録音されたオーディオまたは楽器の音符のループが始まります。

追加機能:

ATOM SQ は、ランチャー モード時に画面と画面エンコーダーを介して 7 つの追加機能を提供します。

- ランチャーの切り替え- Studio One Pro でランチャーを表示または非表示にします (並べて表示または排他的表示は Studio One Pro 内から設定する必要があります)。
- プレイリストの切り替え- Studio One Pro のランチャーのプレイリストを表示または非表示にします。
- すべて停止- 現在再生中または一時停止中のすべてのセルを停止します。
- セル ビュー- パッドは Studio One Pro のセルの「フレーム」内のセルを表します。
- シーン ビュー- パッドは Studio One Pro のシーン「フレーム」内のシーンを表します。
- ハイブリッド- パッドの上部レーンはセルの「フレーム」内のセルを表し、パッドの下部レーンはシーンの「フレーム」内の「シーン」を表します。
- スクリーン エンコーダー- 回して Studio One Pro トラックを移動します。

注:これらのコマンドは、ソング画面モードの 5 ページ目 (5 ページ中) にも表示されます。

3.3.2点滅ライトと点滅ライト

これから何が起動されるのか、現在何が再生されているのかを理解するのに役立つ表示が 3 種類あります。

- セルが再生中 (起動中)の場合、パッドは曲のテンポに合わせて 1 拍おきに緑色に点滅 (フェードインおよびフェードアウト)します。
- セルの起動または停止がスケジュールされている場合、起動前にパッドが曲のテンポに合わせて各ビートで緑色に点滅し (オフとオン)、その後点滅に変わります。セルの停止がスケジュールされている場合、パッドは停止前に点滅し、停止すると単色に変わります。
- セルの再生中にトランスポートが停止すると、セルは一時停止します。これらの一時停止されたパッドは、トランスポートが停止している間、セルの特定の色を維持し、曲のテンポに合わせて各ビートで点滅 (オンとオフ) します。その後、トランスポートが再開すると、パッドは再び点滅状態に戻ります。

セル内の録音には、点滅とパルスの同じルールが適用されます。赤く点滅している場合は、ランチャーの量子化設定に応じて開始または停止がスケジュールされていることを意味します。赤く点滅している場合は、録音がアクティブであることを意味します。

4 高度なAbleton Live統合

ATOM SQ は、制作やライブ パフォーマンス用に設計されたユニークな Ableton Live コントローラーでもあります。パフォーマンス中にクリップやシーンを起動したり、デバイスを選択してパラメータを編集したり、トラックやシーンをナビゲートしたり、各トラックのボリューム、パン、センド レベルをコントロールしたり、さらに Ableton Live でのドラム プログラミングをすべて ATOM SQ から行うことができます。

Ableton Live に接続すると、ATOM SQ の Studio One Pro ロゴ ライトが青色に変わり、自動的に構成されます。

ATOM SQ が接続されているかどうかは、macOS では Live メニュー > 環境設定 > MIDI に、Windows ではオプション > 環境設定 > MIDI に進んで確認できます。「ATOMSQ」というラベルの付いたコントロール サーフェスがあり、入力ポートと出力ポートの両方が「ATM SQ」に設定されているはずです。

注意:このセクションで説明する機能を使用するには、Ableton Live バージョン 10.1.15 以降が必要です。

4.1 制御機能

4.1.1 RGBカラー

インストゥルメント モードでは、選択されたパッド レイアウト モードに応じてパッドの色が変わります。ソング モードでは、Live のセッション ビューのクリップの色によって、ATOM SQ の上部レーンのパッドの色が決まります。

4.1.2ノートまたはクリップのトリガー

インストゥルメント モードでは、32 個のパッドすべてがベロシティ センシティブです。弱い力で叩くと音が小さくなり、強い力で叩くと音が大きくなります (フル ベロシティまたは 16 ベルが有効でない場合)。すべてのパッドは圧力にも反応します。パッドを叩いて押し下げた後、圧力を増減して、ソフトウェアで使用可能な複数の表現パラメータ (アフタータッチなど) を制御できます。ソング モードでは、パッドはクリップの周りの「ボックス」内の対応するクリップをトリガーします。

4.1.3プラスパッドとマイナスパッド

インストゥルメント モードでは、+ パッドと - パッドは圧力に敏感なボタンです。これらは、ピッチベンドまたはオクターブアップ/ダウンコマンドに割り当てることができます。注意: これらの割り当ては、Live を起動する前に行う必要があります。詳細については、セクション 2.1 を参照してください。

ソング モードでは、プラス ボタンを押すと現在選択されているシーンが起動します。マイナス ボタンを押すと、下のレーンがトラック選択モードからクリップ停止モードに切り替わります。
このボタンは押すとラッチされ、押したままにすると瞬間的に動作します。

4.1.4タッチストリップ

インストゥルメント モードでは、タッチ ストリップによって ATOM SQ に表現力豊かなコントロールが追加されます。タッチ ストリップは、ピッチ ベンド、モジュレーション ホイールなどの音楽機能に割り当てることができます。ソング モードでは、タッチ ストリップは Live のクロスフェーダーを制御します。注意:この割り当ては、Live を起動する前に行う必要があります。詳細については、セクション 2.1 を参照してください。

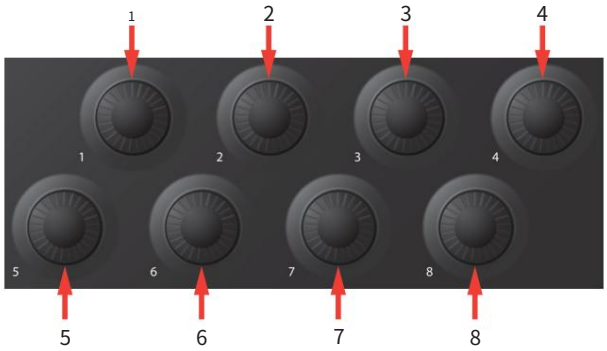
4.1.5 AHボタン

インストゥルメント モードでは、AH ボタンを使用して現在のドラム バンクを変更したり、キーボード レイアウトで現在のオクターブを変更したりできます。キーボード レイアウトでは、「A」ボタンはサステインの一時ボタンとして使用されます (押し続けるとサステインは持続します)。
ソング モードでは、「A」ボタンでアレンジャー ビューとセッション ビューを切り替え、「B」ボタンでブラウザーの表示と非表示を切り替え、「D」ボタンで詳細ビューの表示と非表示を切り替え、「H」ボタンでデバイス ビューとクリップ ビューを切り替えます。

4.1.6ノブ1〜8

8 つのメイン ノブは、モードに応じて制御対象が変わります。インストゥルメント モードまたはエディター モードでは、現在選択されているデバイスまたはインストゥルメントのパラメーターを制御するために使用されます。

ソング モードでは、ノブでチャンネル パラメータを制御します。



1. ボリューム

2. パン

3. 送信

4. Bを送信

5. Cを送信

6. Dを送信

7. Eを送信

8. Fを送信

ユーザー モードでは、48 個のノブ割り当てが可能なノブ ユーザー割り当ての 6 ページがあります。画面からユーザー ページを選択し、Live の MIDI マップ モードを使用してノブをマップします。画面ボタンをマップすることは可能ですが、これらは瞬間スイッチであるためお勧めできません。Live の MIDI マップ モードに入る前にユーザー ページが選択されていることを確認してください。選択されていない場合は、ユーザー ボタンがマップされます。

パワー ユーザーのヒント:これらのノブには速度乗数が組み込まれています。ノブを速く回すほど、最小値または最大値に到達するまでの時間が短くなります。

4.1.7ナビゲーションボタン

Shift ボタンの左側にある上、下、左、右のナビゲーション ボタンを使用すると、セッション ビュー内のクリップやシーンを移動できます。
アレンジャー ビューでは、ナビゲーションの左ボタンと右ボタンで次のトラックまたは前のトラックを選択し、ナビゲーションの上ボタンと下ボタンに加えて Shift キーを押すと、「ボックス」がそれぞれ上または下に移動します。

注意: Shift キーを押さずにナビゲーションの上ボタンと下ボタンを押すと、アレンジャー ビューにフォーカスがあっても、セッション ビューでのシーン選択を制御できます。

4.1.8トランスポートボタン

これらは ATOM SQ の専用トランスポート ボタンです。一部のボタンにはプライマリ コマンドとセカンダリ コマンドがあります (Shift キーも押されている場合)。

- 停止。トランスポートの再生を停止します。もう一度押すとゼロに戻ります。
- Shift + Stop。最後のコマンドまたはアクションを元に戻します。
- 再生。トランスポートを開始します。
- Shift + 再生。ループを有効または無効にします。
- 録音。アレンジャー ビューで再生ヘッドの位置から録音を開始します。セッション ビューでは、録音オーバーダブ モードを切り替えます。
- Shift + 録音。 「MIDI キャプチャ」を有効にします。
- メトロノーム。メトロノームを有効または無効にします。

4.2 画面コントロール

ATOM SQ の画面コマンドは、現在選択されているモードに応じて変わります。

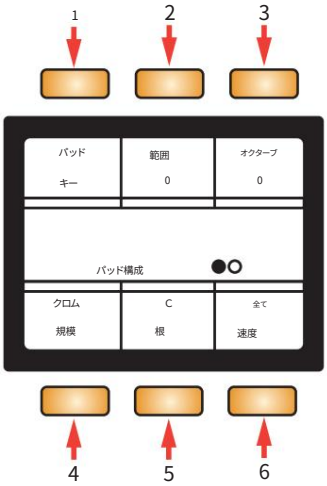
画面ボタンを押して機能を選択するか、コマンドをトリガーします。画面エンコーダーを使用して、インストゥルメント モードで選択した画面パラメータの値 (オクターブ、レートなど) を変更します。

ソング モードでは、スクリーン エンコーダーは再生ヘッドを前後に移動します。
Shift ボタンを押しながらスクリーン エンコーダーを回すと、マスター テンポが変更されます。

4.2.1計器モード

楽器モードでは、画面が変わり、仮想楽器を制御するために使用される機能が表示されます。

4.2.1.1パッドの設定



1.パッド。選択すると、スクリーン エンコーダーによってパッドのレイアウトの表示方法が変更されます。

2.キー。ピアノのレイアウトに従います。下のレーンの白鍵と上のレーンの黒鍵。スケール タイプ (クロマチック以外) を選択した場合は、明るいパッドがスケール内の正しい音符を演奏するようにガイドします。
暗く表示されたパッドは「間違った音」とみなされますが、演奏は可能です。

- ブロック。左側に 1 つのドラム バンクを割り当て、右側に 1 つのドラム バンクを割り当てます。最初のバンクはパッド 1 から始まり、2 番目のバンクはパッド 9 から始まります。
- 連続。下のレーン (パッド 1 ～ 16) から始めて左から右へすべてのピッチを割り当て、次に上のレーン (パッド 17 ～ 32) に続けます。

3.範囲/トランスポーズ。選択すると、スクリーン エンコーダーを回すと、キー モードでキーボードの表示範囲が変更され、ブロック モードまたは連続モードでパッドがトランスポーズされます。

4.オクターブ。選択すると、スクリーンエンコーダーはパッドをトランスポーズします。
音楽オクターブ単位での音符の割り当て（7 オクターブまで可能）。
注:オクターブは BH ボタンを使用して変更することもできます。

5.スケール。選択すると、スクリーン エンコーダーはパッドのノート割り当てを変更し、選択した音楽スケールに制限します。

- 半音階、すべての可能な音符が利用可能
- 選考科目
- メロディックマイナー
- ハーモニックマイナー
- ナチュラルマイナー
- メジャーペンタトニック
- マイナーペンタトニック
- ブルース
- ドリアンマイナー

•ミクソリディアン

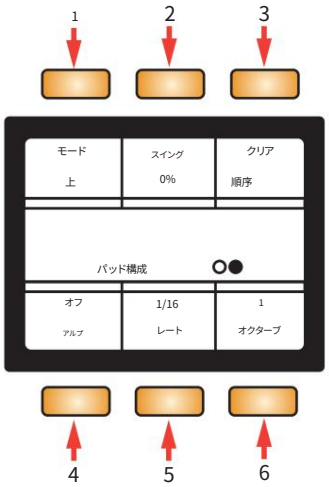
•フリギア語

6.ルート。選択すると、スクリーンエンコーダーはスケールのルート音を変更します。(C、C#、D、D#、E、F、F#、G、G#、A、A#、B)。ルート音は緑のパッドで示されます。

7.速度。選択すると、スクリーン エンコーダーは 3 つの速度モード を切り替えます。

- すべて。パッドは 1 ～ 127 のすべての可能なベロシティをトリガーできます。
- フル。パッドは固定ベロシティ 127 を送信します。
- 16 ベロシティ。ブロック モードまたは連続モードの場合にのみ使用可能で、16 ベロシティは上部レーンから選択した MIDI ノートを取得し、選択したノートを下部レーンの 16 の固定ベロシティにマッピングします。パッド 1 はベロシティ 7 に固定され、パッド 16 はベロシティ 127 に固定されます。

4.2.1.2アルペジエーター



ページを上に移動すると、Arp モード オプションが表示されます。Arp モードは、アルペジエーター ページにいる間のみ有効になります。

1.モード。選択すると、スクリーン エンコーダーはアルペジエーターの 再生モードを変更します。

- 上へ。アルペジオは最も低い押さえられた音から始まり、押さえられた音の間を上へ移動し、アルペジオが再び始まると最も低い音に戻ります。
- ダウン。アルペジオは最も高い保持音から始まり、保持されている音を下方に移動し、アルペジオが再び始まると最も高い音に戻ります。
- 上/下。アルペジオは最低の音から始まり、最高音まで上昇し、次に最低音まで下降し、アルペジオが再び始まります。
- ダウン/アップ。アルペジオは、保持されている最高音から始まり、最低音まで下がっていき、その後最高音まで戻って、アルペジオが再び始まります。
- ランダム。アルペジオは現在押さえている音をランダムなパターンで演奏します。
- コード。現在押されているコード（または単音)は、押されている限り繰り返されます。
- 入力。アルペジオ パターンは、音符を演奏して保持する順序によって決まります。

2.スイング。選択すると、スクリーン エンコーダーはシーケンスに適用される「スイング」の量を調整します。

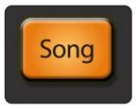
3.シーケンスをクリアします。押すと、保留中のシーケンスが停止します。

4. Arp。押すと、アルペジエーターのオフ、オン、ホールド モードを切り替えます。

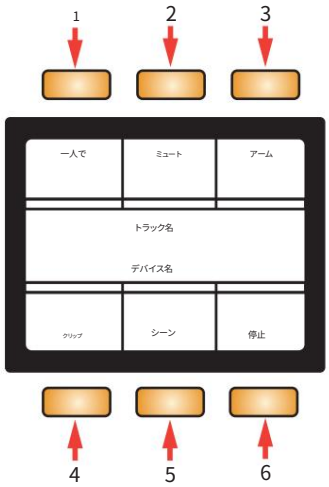
5.レート。選択すると、スクリーン エンコーダーは、アルペジエーターがシーケンス内の各ノートをステップする速度を調整します。

6.オクターブ。選択すると、スクリーン エンコーダーは、シーケンスが再開する前にステップするオクターブ数を変更します。

4.2.2ソングモード



ソング モードでは、セッションでよく使用される機能とコマンドが表示されます。



1.ソロ。現在選択されているトラックをソロにします。

2.ミュート。現在選択されているトラックをミュートします。

3.アーム。現在選択されているトラックを録音アームします。

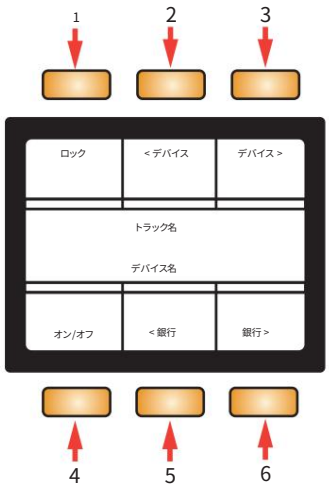
4.クリップ。現在選択されているクリップを起動します。

5.シーン。現在選択されているシーンを起動します (ボックスとは無関係)。

6.停止。現在再生中のクリップを停止します。

4.2.3エディターモード

エディター モードでは、デバイスの制御に特有の機能が表示されます。



1.ロック。ノブ 1 ～ 8 のコントロールを現在選択されているデバイスにロックします。

2. < デバイス。前のデバイスを選択します。

3.デバイス >。次のデバイスを選択します。

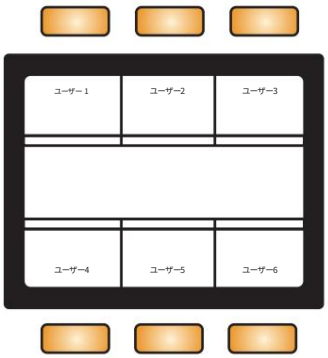
4.オン/オフ。現在選択されているデバイスのオン/オフを切り替えます。

5. < バンク。前のノブ 1 ～ 8 のデバイス割り当てを 8 つのバンクで選択します (該当する場合)。

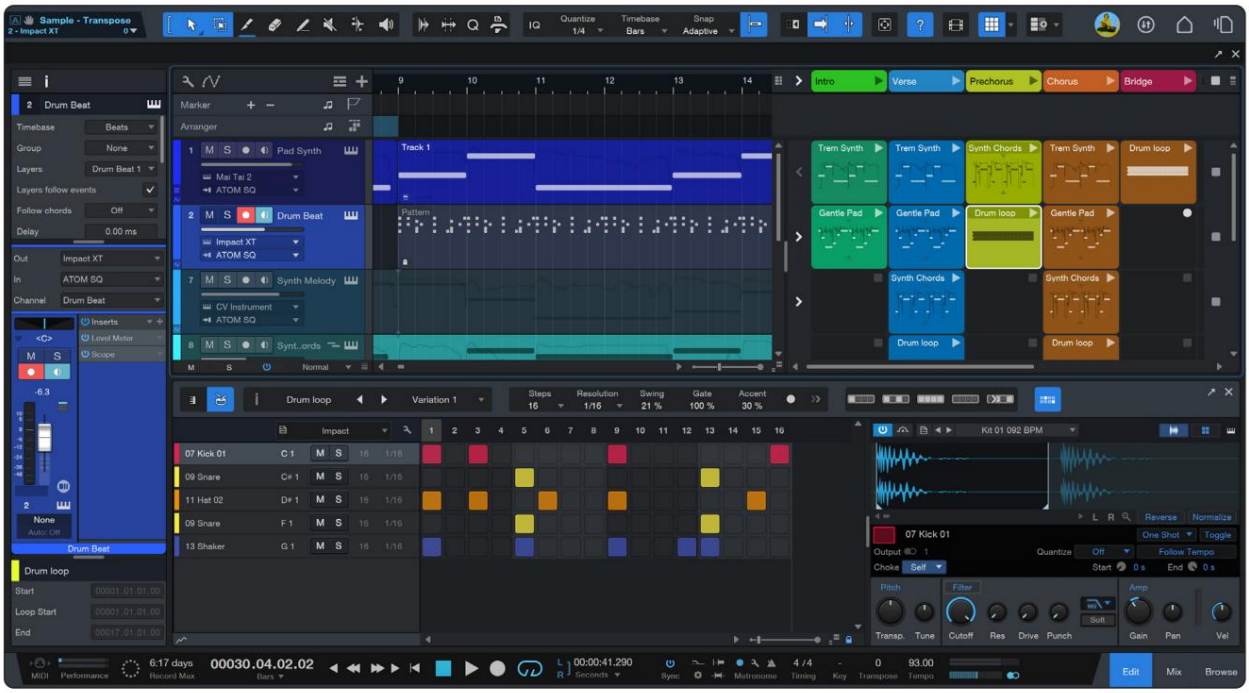
6.バンク >。次のノブ 1 ～ 8 のデバイス割り当てを 8 つのバンクで選択します (該当する場合)。

4.2.4ユーザーモード

ユーザー モードでは、Live の MIDI マップ モードを使用してノブ 1 ～ 8 を完全にユーザーが割り当てることができます。各画面ボタンは、48 個の割り当てが可能な現在のノブ バンクを変更します。



5 Studio One Pro クイックスタート



登録済みの ATOM SQ ユーザー全員に、Studio One Pro+ レコーディングおよび制作ソフトウェアが提供されます。初めてのアルバムをレコーディングする場合でも、50 枚目のアルバムをレコーディングする場合でも、Studio One Pro+ には、優れたパフォーマンスをキャプチャしてミックスするために必要なすべてのツールが用意されています。

5.1 インストールと認証

オーディオ インターフェイスのドライバーをインストールし、コンピューターに接続したら、付属の PreSonus Studio One Pro 音楽制作ソフトウェアを使用して、音楽の録音、ミキシング、制作を開始できます。

Studio One Pro をインストールするには、My PreSonus アカウントにログインし、ATOM SQ を登録します。Studio One Pro のプロダクト キーは、ハードウェア登録とともに My PreSonus アカウントに自動的に登録されます。

Studio One Proインストーラーのダウンロードと実行

Studio One Pro をインストールするには、My PreSonus アカウントから Studio One Pro インストーラーを使用するコンピューターにダウンロードします。

Windows: Studio One Pro インストーラーを起動し、画面の指示に従います。

Mac: Studio One Pro アプリケーションを Mac ハードドライブのアプリケーション フォルダにドラッグします。

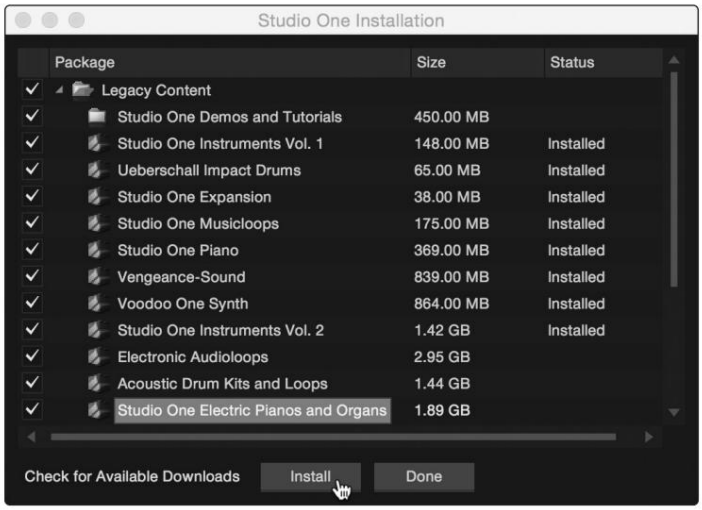
Studio One Proのオーソライズ

Studio One Pro をコンピューターで初めて起動すると、My PreSonus アカウントと通信して登録を確認します。認証プロセスをスムーズに行うには、インストーラーを必ず使用するコンピューターにダウンロードし、アプリケーションを初めて起動するときにコンピューターがインターネットに接続されていることを確認してください。

Studio One Pro+ のバンドルコンテンツのインストール

Studio One Pro+ には、さまざまなデモおよびチュートリアル素材、インストゥルメント、ループ、サンプルがバンドルされています。Studio One Pro+ バンドルには、音楽制作を始めるために必要なものがすべて含まれています。

Studio One Pro を初めて起動すると、付属コンテンツをインストールするように求められます。追加するコンテンツを選択し、「インストール」をクリックします。コンテンツは自動的に My PreSonus ユーザー アカウントからダウンロードされ、インストールされます。



パワー ユーザーのヒント: My PreSonus ユーザー アカウント情報を入力するよう求められる場合があります。[資格情報を記憶する] をクリックすると、PreSonus Marketplace から購入したコンテンツにすぐにアクセスできるようになります。

5.2 Studio One Proの設定

Studio One Pro は PreSonus インターフェイスと連携するように設計されており、独自の相互運用性と簡素化されたセットアップを提供します。Studio One Pro を起動すると、デフォルトではスタートページが表示されます。このページには、ドキュメント管理およびデバイス構成コントロールのほか、カスタマイズ可能なアーティスト プロファイル、ニュース フィード、PreSonus のデモやチュートリアルへのリンクがあります。コンピュータがインターネットに接続されている場合、PreSonus Web サイトで新しいチュートリアルが利用可能になると、これらのリンクが更新されます。

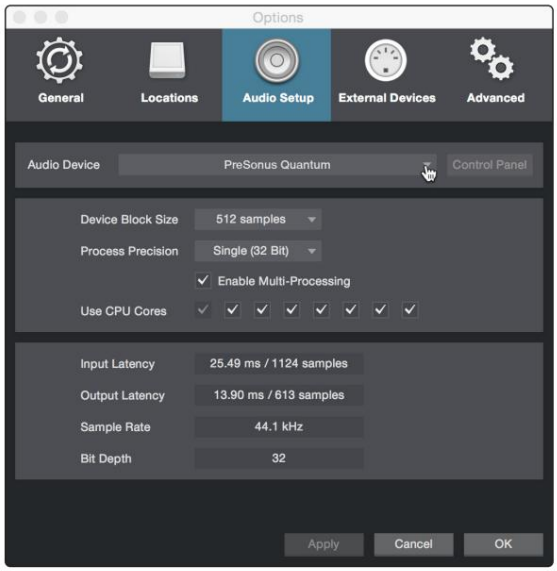
Studio One Pro のあらゆる側面に関する完全な情報は、Studio One Pro 内にあるリファレンス マニュアル PDF に記載されています。このチュートリアルの情報は、Studio One Pro の基本的な側面のみをカバーしており、できるだけ早くセットアップして録音できるようにすることを目的としています。

5.2.1オーディオデバイスの設定

スタート ページの中央に、セットアップ領域が表示されます。Studio One Pro は、システムで利用可能なすべての ドライバーを自動的にスキャンし、ドライバーを選択します。デフォルトでは、PreSonus ドライバーが利用可能な場合 はそれを選択します。

1. 「オーディオ インターフェイスの構成」リンクをクリックして、オーディオ インターフェイス ドライバーを選択します。

2. オーディオデバイスプルダウンからオーディオインターフェースを選択します。
ダウン メニュー。このページから、デバイスのバッファ ブロック サイズを調整することもできます。
完了したら [OK] をクリックします。



5.2.2 MIDIデバイスの設定

Studio One Pro の外部デバイス ウィンドウから、MIDI キーボード コントローラー、サウンド モジュール、コントロール サーフェスを設定できます。このセクションでは、他の MIDI キーボード コントローラーとサウンド モジュールの設定手順を説明します。他の MIDI デバイスの詳細な設定手順については、Studio One Pro 内のリファレンス マニュアルを参照してください。

サードパーティの MIDI インターフェイスまたは USB MIDI コントローラー キーボードを使用している場合 は、このセクションを開始する前に、これらのデバイスに必要なドライバーをインストールする必要があります。完全な インストール手順については、MIDI ハードウェアに付属のマニュアルを参照してください。

注意: Studio One Pro は、ATOM SQ をコントロール用に自動的に構成します。セットアップは必要ありません。

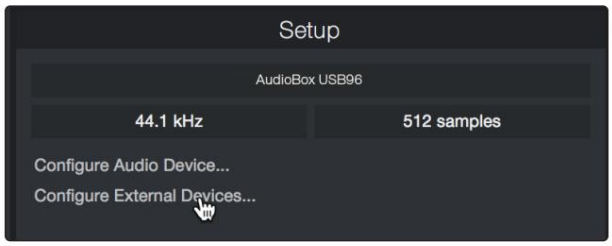
MIDIキーボードコントローラーの設定

MIDI キーボード コントローラーは、通常、他の MIDI デバイス、仮想楽器、およびソフトウェア パラメーターの再生と制御に使用されるハードウェア デバイスです。
Studio One Pro では、これらのデバイスはキーボードと呼ばれ、使用する前に設定する必要があります。場合によっては、MIDI キーボード コントローラーがトーン ジェネレーターとしても使用されます。Studio One Pro では、コントローラーとトーン生成機能は、MIDI キーボード コントローラーとサウンド モジュールという 2 つの異なるデバイスとして認識されます。MIDI コントロール (キーボード、ノブ、フェーダーなど) はキーボードとして設定されます。サウンド モジュールはインストゥルメントとして設定されます。

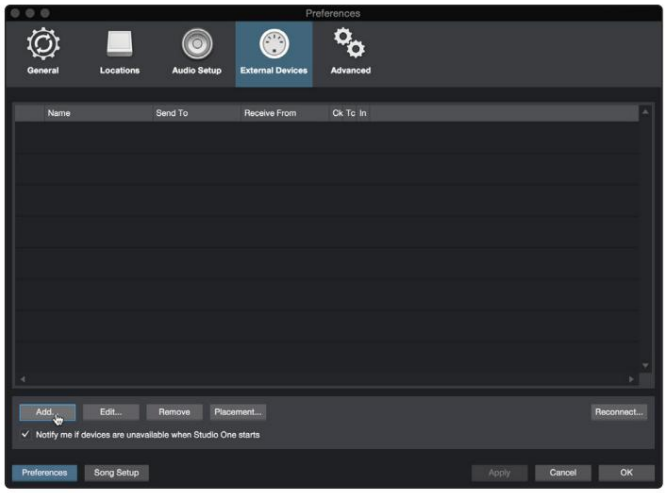
スタート ページのセットアップ領域から外部 MIDI デバイスを設定できます。
録音用に新しい曲を設定する前に、外部デバイスを構成してください。

外部 MIDI コントローラーの MIDI 出力が PreSonus オーディオ インターフェイス (使用可能な場合) または別の MIDI インターフェイスの MIDI 入力に接続されていることを確認します。USB MIDI コントローラーを使用している場合は、コンピューターに接続して電源を入れます。

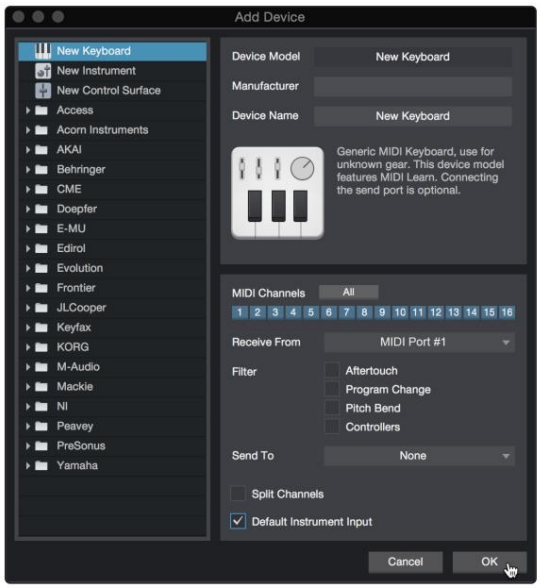
1. スタート ページのセットアップ領域にある [外部デバイスの構成] リンクをクリックして、[外部デバイス] ウィンドウを起動します。



2. [追加] ボタンをクリックします。[デバイスの追加] ウィンドウが起動します。



3. 左側のメニューから、MIDIコントローラーをリストから選択します。
メーカーとモデル。MIDI コントローラーがリストに表示されない場合は、[新しいキーボード] を選択します。この時点で、メーカー名とデバイス名を入力して、キーボードの名前をカスタマイズできます。



4. このキーボードとの通信に使用する MIDI チャンネルを指定する必要があります。ほとんどの場合、すべての MIDI チャンネルを選択する必要があります。
どの MIDI チャンネルを選択すればよいかわからない場合は、16 個すべてを選択してください。

5. Studio One Pro では、特定のコントロール機能をフィルタリングできます。Studio One Pro でアフタータッチ、ピッチベンド、プログラムチェンジ、またはすべての CC メッセージを無視したい場合は、これらのメッセージの一部またはすべてに対してフィルタリングを有効にします。

6. [受信元] ドロップダウン メニューで、Studio One Pro が MIDI データを受信する MIDI インターフェイス入力 (つまり、キーボードが接続されている MIDI ポート) を選択します。

パワー ユーザーのヒント: [送信先] ドロップダウン メニューで、Studio One Pro がキーボードに MIDI データを送信する MIDI インターフェイス出力を選択します。キーボード コントローラーが Studio One Pro から MIDI データを受信する必要がない場合は、このオプションを選択しないままにしておきます。

7. 外部シンセサイザーや仮想楽器を制御するために使用するキーボードがこれのみである場合は、[デフォルトの楽器入力] の横にあるボックスをオンにする必要があります。これにより、Studio One Pro 内のすべての MIDI デバイスを制御するためにキーボードが自動的に割り当てられます。

8. 「OK」をクリックします。

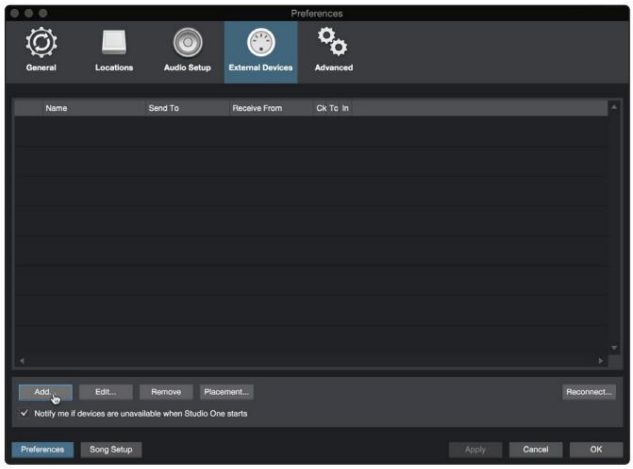
接続するサウンド モジュールがある場合は、[外部デバイス] ウィンドウを開いたままにして、このセクションの次の部分に進みます。
そうでない場合は、ウィンドウを閉じて次のセクションに進んでください。

外部MIDIサウンドモジュールの設定

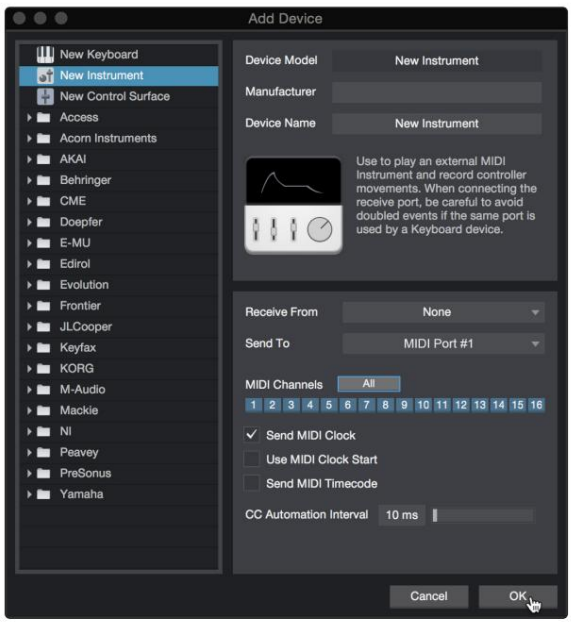
MIDI 楽器コントローラー (キーボード、MIDI ギターなど) は、MIDI データの形式で音楽情報をトーン モジュールと仮想楽器に送信し、指示に従ってサウンドを生成します。トーン モジュールは、スタンドアロンのサウンド デバイスにすることも、キーボード シンセサイザーなどの MIDI 楽器に統合することもできます。Studio One Pro では、すべてのトーン ジェネレーターを楽器と呼びます。MIDI キーボード コントローラーを設定したら、サウンド モジュールを構成します。

外部サウンド モジュールの MIDI 入力が MIDI インターフェイスの MIDI 出力に接続されていることを確認します。

1. 「外部デバイス」ウィンドウで、「追加」ボタンをクリックします。



2. 左側のメニューでデバイスを選択します。デバイスがリストにない場合は、[新しい機器] を選択します。この時点で、製造元とデバイス名を入力して、キーボードの名前をカスタマイズできます。



3. このサウンド モジュールとの通信に使用する MIDI チャンネルを指定します。ほとんどの場合、すべての MIDI チャンネルを選択する必要があります。どの MIDI チャンネルを選択すればよいかわからない場合は、16 個すべてを選択することをお勧めします。

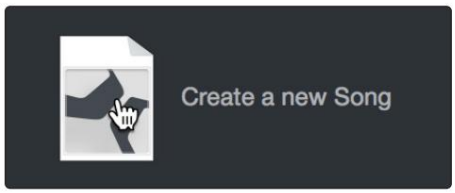
4. [送信先] メニューで、Studio One Pro がサウンド モジュールに MIDI データを送信する MIDI インターフェイス出力を選択します。[OK] をクリックして、[外部デバイス] ウィンドウを閉じます。これで、Studio One Pro で録音を開始する準備が整いました。

5. このクイックスタートガイドの残りの部分では、設定方法について説明します。曲の作成方法と、Studio One Pro 環境を操作するための一般的なワークフローのヒントについて説明します。

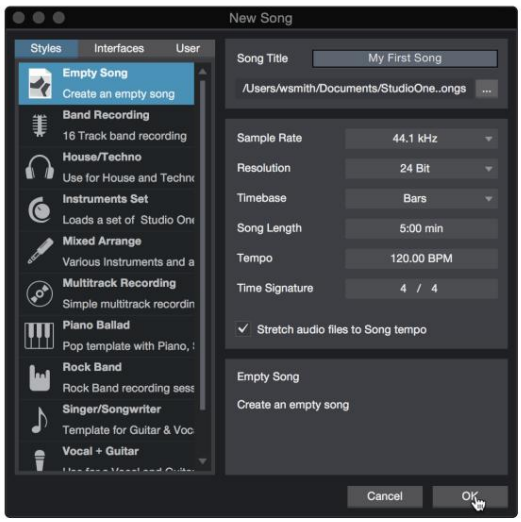
5.3 新しい曲を作る

オーディオと MIDI デバイスの設定が完了したので、新しいソングを作成しましょう。まず、デフォルトのオーディオ I/O を設定します。

1. スタートページから「新しい曲の作成」を選択します。



2. 新しい曲ウィンドウで曲に名前を付け、保存したいソングを選択します。左側にテンプレートのリストが表示されます。これらのテンプレートは、さまざまなデバイスや録音状況に合わせて簡単に設定できます。このセクションでは、空のセッションからソングを作成する方法について説明します。

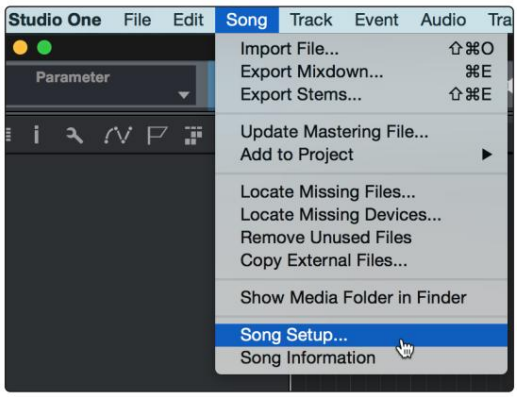


3. テンプレート リストから「空の曲」を選択します。この時点で、曲に名前を付け、録音と再生に使用するサンプル レートとビット深度を選択します。また、曲の長さとタイムラインに表示する時間形式 (小節、秒、サンプル、またはフレーム) も設定できます。完了したら、[OK] ボタンをクリックします。

パワー ユーザーのヒント:曲にループをインポートする場合は、[オーディオ ファイルを曲のテンポに合わせてストレッチ] オプションが選択されていることを確認してください。これにより、ループが正しいテンポで自動的にインポートされます。

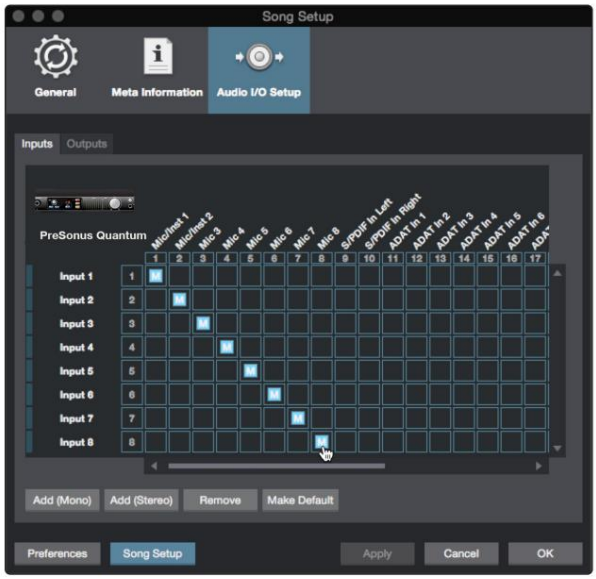
5.3.1オーディオI/Oの設定

1. 「Song | Song Setup」をクリックして、サンプル レートと解像度を設定し、オーディオ I/O を構成します。

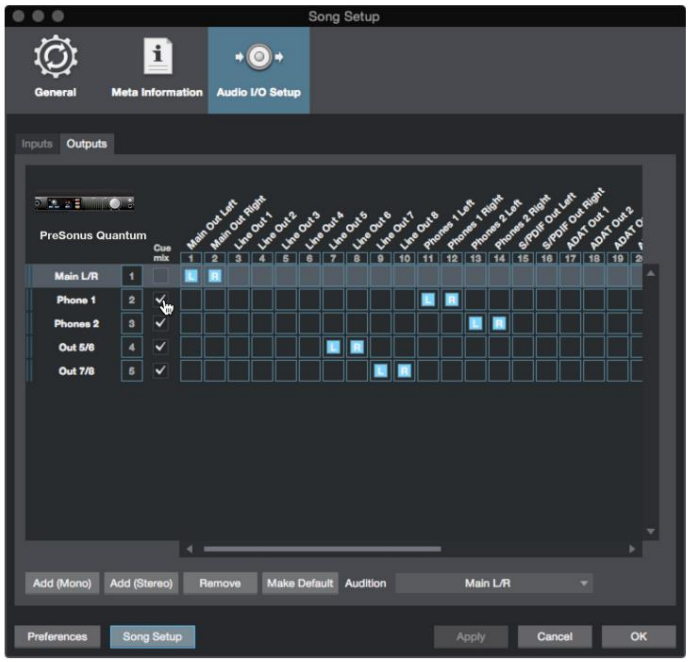


2. 「オーディオI/O設定」タブをクリックします。

3. 入力タブから、入力の一部またはすべてを有効にすることができます。
利用できるオーディオ インターフェイスを選択します。インターフェイスの各入力にモノラル入力を作成することをお勧めします。ステレオで録音する予定の場合は、ステレオ入力もいくつか作成する必要があります。



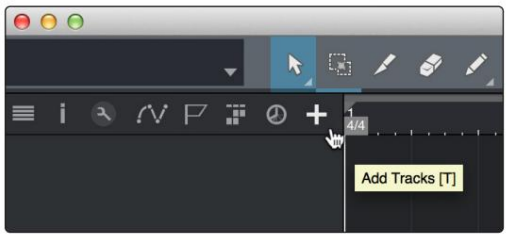
4. 出力タブをクリックして、オーディオ インターフェイスの出力の一部またはすべてを有効にします。右下隅に、オーディション選択メニューが表示されます。これにより、Studio One Pro にインポートする前にオーディオ ファイルを試聴する出力を選択できます。通常は、これをメイン出力バスにします。



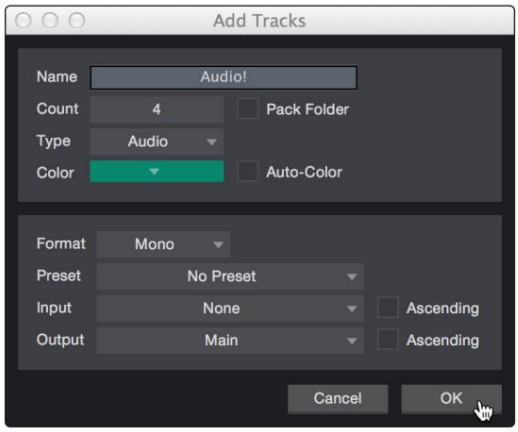
パワー ユーザーのヒント: Studio One Pro を開くたびにこの I/O 構成を同じにしたい場合は、[デフォルトに設定] ボタンをクリックします。

5.3.2オーディオトラックとインストゥルメントトラックの作成

1.アレンジウィンドウの左上隅に、
いくつかのボタンがあります。一番右のボタンはトラックの追加ボタンです。このボタンをクリックすると、トラックの追加ウィンドウが開きます。



2. [トラックの追加] ウィンドウで、トラック名と色をカスタマイズしたり、エフェクトのプリセット ラックを追加したり、オーディオ トラックの入力と出力の物理ソースを設定したりできます。最も重要なのは、作成するトラックの数と種類を選択できることです。



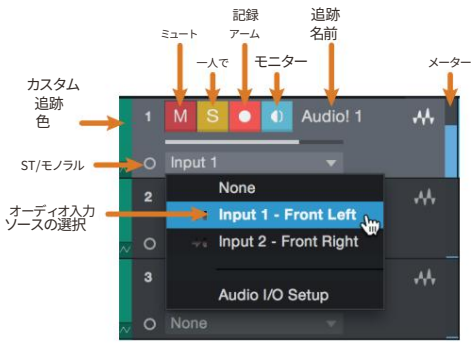
オーディオ。このトラック タイプを使用して、オーディオ ファイルを録音および再生します。

インストゥルメント。このトラックを使用して MIDI データを録音および再生し、外部 MIDI デバイスまたは仮想インストゥルメント プラグインを制御します。

オートメーション。このトラック タイプを使用すると、セッションの自動化されたパラメーター コントロールを作成できます。

フォルダー。このトラックは、セッションを管理したり、複数のトラックを一度にすばやく編集したりするのに役立ちます。

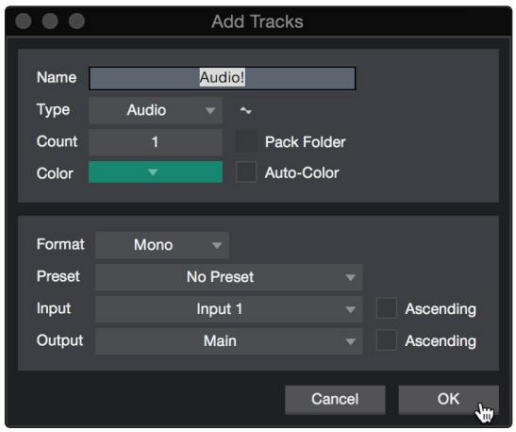
パワー ユーザーのヒント:使用可能な入力ごとにオーディオ トラックを追加する場合は、[トラック] | [すべての入力のトラックを追加] に移動します。



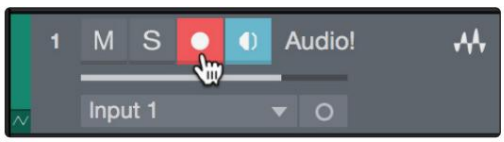
注意:インストゥルメント トラックはオーディオ トラックとほぼ同じです。インストゥルメント トラックの入力ソース リストには、使用可能な外部 MIDI デバイスと、ソングに追加された仮想インストゥルメントがリストされます。

5.3.3オーディオトラックの録音

1. 録音を開始するには、「トラックの追加」ウィンドウからオーディオ トラックを作成し、その入力をオーディオ インターフェイスの入力 1 に設定し、同じ入力にマイクを接続します。



2. トラックで録音を有効にするを選択します。マイクに話しかけたり歌ったりしながら、オーディオ インターフェイスの入力 1 レベルを上げます。Studio One Pro の入力メーターが入力に反応するのを確認できます。ゲインを調整して、クリッピング (歪み) せずに入力レベルが最大に近くなるようにします。



これで録音を開始する準備ができました。詳細な手順については、[ヘルプ] | [Studio One Pro リファレンス マニュアル] にある Studio One Pro リファレンス マニュアルを参照してください。

5.3.4仮想楽器とエフェクトの追加

ブラウザからドラッグ アンド ドロップすることで、プラグインやインストゥルメントをソングに追加できます。また、エフェクトまたはエフェクト グループを 1 つのチャンネルから別のチャンネルにドラッグしたり、カスタマイズされたエフェクト チェーンをドラッグしたり、メニューをスクロールすることなく、お気に入りの仮想インストゥルメント プリセットを即座にロードしたりすることもできます。

ブラウザを開く

アレンジ ウィンドウの右下隅には、次の 3 つのボタンがあります。

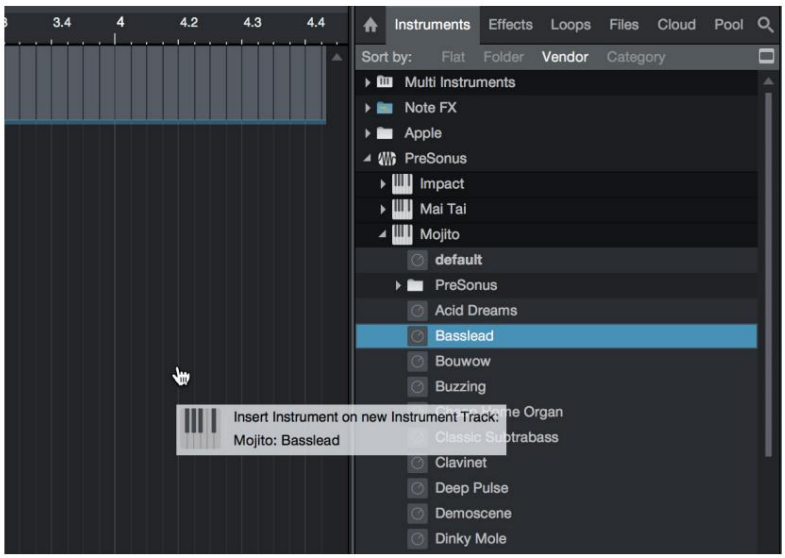
編集。編集ボタンはオーディオ エディターと MIDI エディターを開いたり閉じたりします。

ミックス。ミックス ボタンはミキサー ウィンドウを開いたり閉じたりします。

参照。参照ボタンをクリックするとブラウザが開き、使用可能なすべての仮想楽器、プラグイン エフェクト、オーディオ ファイル、MIDI ファイル、および現在のセッションにロードされているオーディオ ファイルのプールが表示されます。

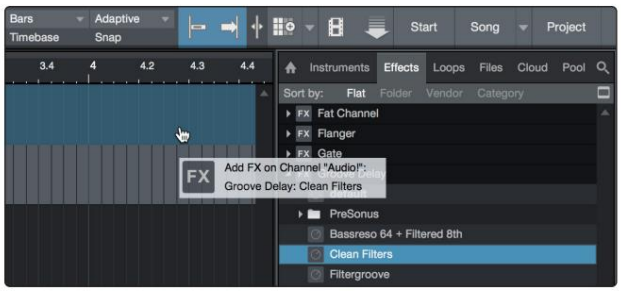
ドラッグアンドドロップ仮想楽器

セッションに仮想楽器を追加するには、ブラウザを開いて「楽器」ボタンをクリックします。楽器ブラウザから楽器またはそのパッチの 1 つを選択し、アレンジ ビューにドラッグします。Studio One Pro は自動的に新しいトラックを作成し、楽器を入力として読み込みます。



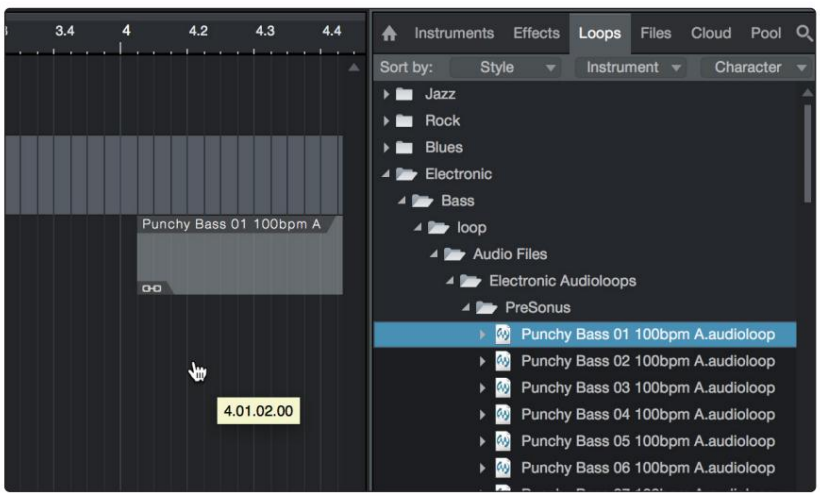
ドラッグアンドドロップ効果

トラックにプラグイン エフェクトを追加するには、ブラウザーの [エフェクト] ボタンをクリックし、エフェクト ブラウザーでプラグインまたはそのプリセットの 1 つを選択します。エフェクトを追加するトラックに選択範囲をドラッグ アンド ドロップします。



オーディオおよびMIDIファイルのドラッグアンドドロップ

オーディオ ファイルと MIDI ファイルは、ファイル ブラウザーからアレンジ ビューにドラッグすることで、すばやく検索、試聴、曲にインポートできます。
ファイルを空きスペースにドラッグすると、ドラッグした位置にそのファイルが配置された新しいトラックが作成されます。ファイルを既存のトラックにドラッグすると、そのファイルはトラックの新しい部分として配置されます。



追加ボーナス: PreSonus の以前は極秘だったレシピ…

レッドフィッシュ クーヴィヨン

材料: •植物油 ¼カ

ップ

•小麦粉 ¼カップ

•玉ねぎ 1個（みじん切り）

•ニンニク 1 片（みじん切り） •ピ

ーマン 1 個（さいの目切り） •セ

ロリ 3 本（さいの目切り）

• 14オンス缶入りトマトダイスカット1缶

•ライトビール 1 本•ベイリー

フ 2 枚•タイム 小さ

じ 1 杯

•レッドフィッシュの切り身 2 ポンド

調理方法: 1. 厚手の鍋または

大きなフライパンに油を入れ、中火で熱し、小麦粉を大さじ 1 杯ずつゆっくりと加えてルーを作ります。
ルーが茶色くなり始めて濃いブロンド色のルーになるまで調理を続けます。

2. ニンニク、玉ねぎ、ピーマン、セロリをルーに加えます。

3. 野菜が柔らかくなり始めるまで3〜5分炒めます。

4. トマト、月桂樹の葉、タイム、レッドフィッシュを加え、数分間調理します。

5. ビールをゆっくりと加え、弱火で沸騰させます。

6. 火を弱め、蓋をせずにレッドフィッシュと野菜が完全に火が通るまで、時々かき混ぜながら 30 〜 45 分間煮込みます。レッドフィッシュを一口大に切り、かき混ぜます。好みに合わせてコショウまたはホットソースを加えます。蓋はしないでください。

7. ご飯にかける

6〜8人分

レッドフィッシュ クーヴィヨンは、ルイジアナ州南東部のあまり有名な料理ではありませんが、私たちのお気に入りのメキシコ湾の魚を提供する人気の方法です。
レッドフィッシュは、レッドやレッドドラムとも呼ばれ、釣るのが楽しいだけでなく、とても美味しい魚です。

©2024 PreSonus Audio Electronics, Inc. 無断複写•転載を禁じます。PreSonus、PreSonus 波ロゴ、SampleOne、および StudioLive は、PreSonus Audio Electronics, Inc. の登録商標です。Studio One Pro は、PreSonus Software Ltd. の登録商標です。

Mac、macOS、iOS、iPadOS は、米国およびその他の国々で Apple Inc. の登録商標です。
Windows は、米国およびその他の国における Microsoft, Inc. の登録商標です。

ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。VST は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標です。

ここに記載されているその他の製品名は、各社の商標である場合があります。すべての仕様は予告なく変更されることがあります。ただし、定番のレシピは除きます。

ATOM SQ

ハイブリッド MIDI キーボード / パッド パフォーマンスおよび制作コントローラー

取扱説明書

PreSonus®
バトンルージュ・アメリカ
ホームページ
部品番号 70-52000154-D
11/15/24